

○御嵩町第五次総合計画 方針別基本計画実績等一覧(全75施策(所属別評価:79項目))

A：計画通り（達成率75%以上）			49		
B：概ね計画どおり（達成率75%未満～50%以上）			30		
C：あまり進んでいな（達成率50%未満～25%以上）			0		
D：全く進んでいない（達成率25%未満）			0		
0	単位施策	施策の内容	令和6年度実績		
			実施した取組内容と成果及び課題	評価	担当課
1-1	里山や生態系の保全	・里山保全を行うボランティアへの参加促進や、企業との協働による森林づくり協定による里山の保全を継続的に進めます。	【取組内容】 ・共和中学校(56名)の特別授業への協力(12月) ・森林経営信託については施業計画に基づき11.56haの間伐を実施し、629㎡の木材を搬出した。 【成果】 ・水土里隊に1名の新規入隊があった。 ・企業の森活動は5団体中5団体の活動を行った。 【課題】 ・水土里隊員の高齢化もあり、新規入隊者の確保について、引き続き検討する。	B	農林課
1-1	水辺環境と農地の保全	・希少野生生物について、専門家などの協力を得て、生息状況の調査と湿地など水辺環境の保全のための対策を進めます。	【取組内容】 ・生物環境アドバイザーの協力を得て、町公共工事における環境配慮指針に基づき、環境配慮を実施した。 ・岐阜大学教授、生物環境アドバイザーの協力を得て、湿地の環境保全措置を実施した。 【成果】 ・生物環境アドバイザーからの助言等に基づいて公共工事等を行うことにより、環境への負荷を低減する方向で公共事業を行うことができている。 ・止水堰による水量管理や樹木・ツル類の伐採による光環境の改善を行うことで湿地の湿潤度が向上している。 【課題】 ・専門家の助言を受けながら、定期的に湿地の保全措置やモニタリングを継続していく。	A	企画課
1-1	水辺環境と農地の保全	・農業の担い手確保や農地の集約により、農地の保全と遊休農地の発生抑制と解消を図ります。	【取組内容】 ・県や農業者、農業委員などから情報収集を行い、また、農地の集約に向けて情報収集に努めている。 【成果】 ・耕作放棄地解消活動を西洞地区で実施した。農業委員会や担い手が協力して実施し営農可能な状況まで解消した。 【課題】 ・農地の維持に係る相談や、岐阜県や農協との情報交換の中で、情報をキャッチして、担い手への集積集約につなげていく必要がある。	A	農林課
1-1	自然とのふれあい・居住	・レクリエーションや環境学習、保全活動などを通じて、豊かな自然にふれあい親しむ機会や場づくりを充実します。	【取組内容】 ・自然を身近に感じてもらうため、体験型環境教育講座を10講座開催した。(参加者147名) ・大人を対象とした自然観察会を2講座、野鳥観察会を1講座開催した。(参加者49名) ・水や生き物に直接触れて親しむカワゲラウォッチングを町や学校の主催で開催した。(参加者224名) 【成果】 ・子どもから大人までの幅広い世代を対象にし、豊かな自然にふれ合う場をつくることができた。 ・昨年度より環境教育講座の種類を広げることで、参加人数は1,350人と成果指標での目標値1,000人を大きく上回ることができた。 【課題】 ・木育講座において補助をしていただく「木育サポーター」の育成に向けて講座内容の見直しを行う。	A	企画課

○御嵩町第五次総合計画 方針別基本計画実績等一覧(全75施策(所属別評価:79項目))

A：計画通り（達成率75%以上）			49		
B：概ね計画どおり（達成率75%未満～50%以上）			30		
C：あまり進んでいな（達成率50%未満～25%以上）			0		
D：全く進んでいない（達成率25%未満）			0		
0	単位施策	施策の内容	令和6年度実績		
			実施した取組内容と成果及び課題	評価	担当課
1-1	自然とのふれあい・居住	・町内に滞在しながら行う農業体験を推進するとともに、豊かな自然環境を求めて御嵩町への移住者の受け入れを促します。	【取組内容】 ・移住希望者等などが閲覧する外部サイトへ、御嵩町の移住に関する情報掲載を進めた。 ・東京圏からの移住者をターゲットにした移住支援金制度の周知を図った。 【成果】 ・出会いから結婚までサポートするポータルサイト「縁結び大学」にて、御嵩町の移住者支援事業について掲載した。 ・移住を考える人向けの情報サイト「ワープシティ」にて、御嵩町の情報や、御嵩町で働いている4者のインタビュー記事を掲載した。 ・岐阜県が発行する「GIFTS PREMIUM News11月号」に御嵩町への移住に関する特集記事を掲載した。 ・1世帯(テレワーカー／世帯員4名)が東京圏からの移住者支援金を活用して御嵩町へ移住した。 ・移住支援を強化するために、東京圏からの移住支援金の子ども加算追加、県外からの移住支援金制度新設、空き家改修費補助制度新設を進め、令和6年4月1日から制度を開始した。 【課題】 ・他市町村と比較して見劣りしない支援制度が開始できたため、都市圏での周知・PRを強化していく。 ・子育て世帯の移住を進めるため、子育て、教育といった分野の支援の充実を進める。	A	企画課
1-1	自然とのふれあい・居住	・町内に滞在しながら行う農業体験を推進するとともに、豊かな自然環境を求めて御嵩町への移住者の受け入れを促します。	【取組内容】 ①宿泊事業・・・民泊予約サイトを活用した宿泊事業を継続して実施することができた。宿泊環境を整備することで、予約サイトの高評価を維持することができた。 ②農業体験事業・・・R6よりイベント形式の農業体験から宿泊者予約のオプションとして実施している。 【成果】 ①宿泊事業・・・利用日数135日、利用人数612人(延べ利用人数751人) ②農業体験事業・・・実績なし 【課題】 ①宿泊事業・・・利用者数は順調であるが、予約は土日祝日や大型連休時が多く、平日の利用者数を増やしたい。 ②農業体験・・・宿泊利用者のニーズを把握する手法が課題である。	B	農林課
1-2	環境モデル都市の推進	・SDGsに関する学習活動等を通じて、町民のSDGsに関する理解を深めます。	【取組内容】 ・環境政策係が実施する環境講座のチラシに、テーマと一致するSDGsアイコンを活用した。 ・環境フェアのテーマを「みんなでチャレンジSDGs」とし、各出展団体におけるSDGsの取組についての情報提供を行った。 【成果】 ・SDGsアイコンを掲げた講座を含む環境に関する講座の回数及び参加者数：21回・1,350名(うち、環境フェアの参加者 約700名) 【課題】 ・岐阜県が2021年度に「SDGs未来都市」に選定されており、県下市町村のSDGs推進に向けて取組を進めていることから、県創設のSDGs推進の補助金活用等も視野に入れて、効果的に町民の理解促進・行動変容に繋がる取組に着手する必要がある。 ・上記に並行して、職員の理解促進に努め、庁内全体での機運醸成を進めていく必要がある。	B	企画課

○御嵩町第五次総合計画 方針別基本計画実績等一覧(全75施策(所属別評価:79項目))

A：計画通り（達成率75%以上）			49		
B：概ね計画どおり（達成率75%未満～50%以上）			30		
C：あまり進んでいな（達成率50%未満～25%以上）			0		
D：全く進んでいない（達成率25%未満）			0		
0	単位施策	施策の内容	令和6年度実績		
			実施した取組内容と成果及び課題	評価	担当課
1-2	環境モデル都市の推進	・地域資源を最大限に活用し、低炭素化と経済的発展を両立する環境モデル都市の実現を図ります。	【取組内容】 ・町の資源である町有林について、森林経営信託方式や森林ボランティアによる森林整備を継続している。 ・低炭素化を推進するため、県補助金を財源をした太陽光発電・蓄電池システムへの補助金に加え、町独自でも太陽光発電・蓄電池・燃料電池システムへの補助を行っている。また、節電チャレンジ(夏・冬)を実施することで、住民とともに節電に取り組んでいる。 ・公共施設では、9施設に太陽光発電設備を導入し、薪ストーブが2施設で稼働している。 ・家庭用太陽光発電システムによって削減できたCO2排出量のJ-クレジット化や、環境教育において連携及び協力することを目的に東邦ガスと協定を締結した。 【成果】 ・森林経営によって増加した二酸化炭素吸収量について、J-クレジットを772t分、425万円程の売却をすることができた。 ・太陽光発電設備等に関する補助金交付により再生可能エネルギー導入を支援したことにより、分散化エネルギーを促進し、経済的発展の基礎である安心なまちづくりを推進することができた。 ・森林ボランティアが町有林から生産した薪を、町の公共施設の薪ストーブで活用することができている。 【課題】 ・公共施設売電収入と、J-クレジット販売収入による基金の活用方法について検討していく必要がある。 ・エネファームの補助金利用者が少ないため、対象設備の見直しを行う必要がある。 ・節電チャレンジの取組実績が年々減少しているため、周知方法やチャレンジ内容について見直していく。	B	企画課
1-2	循環型社会の形成	・森林の再生や分散型エネルギーへのシフトなど、環境モデル都市行動計画に定める施策を着実に進め、二酸化炭素の排出削減に努めます。	【取組内容】 ・森林の再生＝(1-1 里山や生態系の保全)に記載 ・公共交通の再生＝(5-4 公共交通の利用促進と体系の見直し)に記載 ・家庭・事業所での削減活動・分散型エネルギーへのシフト＝(1-2 環境モデル都市の推進)に記載 ・人づくり・場づくりの推進(1-1 自然とのふれあい・居住)に記載 【成果】 ・二酸化炭素排出削減量は4,565t-CO2となり、前年度比でほぼ横ばいの結果となった。 【課題】 ・令和6年3月に改訂した地球温暖化対策実行計画(区域施策編)に基づき、二酸化炭素排出削減のための取組みを改めて検討していく必要がある。	B	企画課
1-2	循環型社会の形成	・森林整備における端材の木質バイオマス燃料等としての有効活用を進めます。	【取組内容】 ・水土里隊の森林整備による間伐材等の有効活用を検討した。 【成果】 ・森林整備により伐採した木材から薪や炭を作って販売し(例:中山道みたけ館の薪ストーブ用など)、有効に活用することができた。 【課題】 ・水土里隊による森林整備で伐採される木材を利用しているため、森林整備範囲に限界があることから数量に限りがある。 ・みたけの森の薪の長期的な有効活用方法を検討する。	B	農林課

○御嵩町第五次総合計画 方針別基本計画実績等一覧(全75施策(所属別評価:79項目))

A：計画通り（達成率75%以上）			49		
B：概ね計画どおり（達成率75%未満～50%以上）			30		
C：あまり進んでいな（達成率50%未満～25%以上）			0		
D：全く進んでいない（達成率25%未満）			0		
0	単位施策	施策の内容	令和6年度実績		
			実施した取組内容と成果及び課題	評価	担当課
1-2	循環型社会の形成	・生ごみの堆肥化、環境にやさしい商品（グリーン製品）の利用拡大、ごみの分別収集の徹底など3Rに積極的に取り組み、ごみの減量を促進します。	【取組内容】 ・ダンボールコンポストや生ごみ処理機等の購入補助を継続し、補助について広報誌で周知を行った。 ・生活学校リサイクルステーション（隔月開催）、あゆみ館リサイクルステーション（月～金曜日常設）の開催、自治会やアパートなどにおいて資源物の分別収集（隔月開催）、子供会・PTA等の資源回収により、廃棄物の減量及び再利用の推進を図った。 ・御嵩小学校において「ごみ減量」「生活環境向上」を目的とした環境教育を行った。 ・生活学校の協力でダンボールコンポスト講習会及びグリーンカーテン講座を開催し、31名の参加があった。 【成果】 ・ダンボールコンポスト等の購入について 20件 249,900円を補助した。（前年度実績 18件 185,800円） 補助内訳：ダンボールコンポスト 3件 1,800円、設置型コンポスト 2件 6,100円、堆肥化密閉容器 2件 1,900円、電動式等生ごみ処理機 7件 140,000円、剪定枝葉粉碎機 6件 100,100円 ・プラスチック製容器包装収集量が前年度より920kg増加（R5：89,520kg→R6：90,440kg）し、可燃ごみ搬入量も前年度より72.31t減小（R5：2,400.66t→R6：2328.35t）した。 ・分別資源収集にて回収した廃食用油は、精製して航空機燃料・チェーンソーオイル等に利用した。 【課題】 ・学校に対しての環境教育を積極的に行う必要がある。 ・たい肥の利活用は、他の場所での利活用ではなく、小規模でもたい肥を作った方が自身で利活用できるサイクルを整えていく必要がある。	B	住民環境課
2-1	学校での人づくり	・一人ひとりの子どもが、よりよい生活を生みだすことができる、生きる力を育むために、確かな学力を身に着ける指導を充実します。	【取組内容】 ・教頭会で組織される学力向上委員会を継続し、「学校・校種連携・家庭地域連携・児童生徒」の4観点を中心に、各校の実践を交流した。また、教師の指導力向上の基盤となるよう、学力向上の指導のポイント6点を示し全学校で共有した。 ・家庭学習のあり方について協議し、タブレットを用いることで可能な家庭学習の方向性を探ったり、GIFUウェブラーニングの活用について確認したりした。 ・ICTの活用については継続的に実践を重ね、学力の向上と協働の両面に繋がる工夫を凝らした授業を積極的に行った。 【成果】 ・教頭会の学力向上推進委員会では、ロイロノートを中心としたICT機器を活用し、主体的で対話的な学びを生み出すための具体的な指導法などを情報共有することで、授業内容の向上を図った。各学校での授業研究会で出た意見を基に、つけたい力を明確にした活用方法を模索していくことができた。 ・タブレットを活用して、従来型のドリルや問題集を使った学習だけでなく、まなびポケットやGIFUウェブラーニングといったICT上の学習教材を活用して、児童生徒が主体的に学べる工夫が各校で行われた。また、Microsoft teamsといったグループウェアを使って児童会・生徒会活動で効率的かつ効果的な新しい活動を生み出すことができた。 【課題】 ・全国学力・学習状況調査結果を平時の授業に十分生かすことができていない。全国学力・学習状況調査の結果を年間指導計画に反映させて指導に当たることにより効果的な指導を行いたい。	A	学校教育課
2-1	学校での人づくり	・子どもが健全に育ち学び続けることができるように、幼稚園・保育園から高校までを含めた各機関が連携した教育を進めます。	【取組内容】 ・幼保小中高の連携や積み上げ、円滑な接続を大切にし、幼保小中高を見通した教育を構築する。 【成果】 ・小中交流会を通じてそれぞれの指導担当者と意見交流を行い小中の連携の充実を図った。高等学校の校長との合同校長会や、園長との交流により、進学後のつながりを見通した指導につなげることができた。夏休みのサマーワークショップでは東濃高等学校の生徒がボランティアで参加し、小学生の活動のサポートをするという形で交流を行うことができた。また、東濃高校や東濃実業高校の生徒と児童生徒の交流学習の様子を広めることで、町内の小中学校と高等学校との交流事業を広めることにつながった。 【課題】 ・学校運営協議会や学校協働本部の協力を得て、さらに活発な幼保小中高の連携を活発に行う場を模索していきたい。	A	学校教育課

○御嵩町第五次総合計画 方針別基本計画実績等一覧(全75施策(所属別評価:79項目))

A：計画通り（達成率75%以上）		49			
B：概ね計画どおり（達成率75%未満～50%以上）		30			
C：あまり進んでいな（達成率50%未満～25%以上）		0			
D：全く進んでいない（達成率25%未満）		0			
0	単位施策	施策の内容	令和6年度実績		
			実施した取組内容と成果及び課題	評価	担当課
2-1	学校での人づくり	・社会環境の急速な変化にも対応できるように、外国語教育、ICT教育などにおける教育を確立し、人材を育成します。	(外国語教育) 【取組内容】 ・ALT(2名)を継続派遣し、子どもたちの実態に応じた英語活動を実践している。 ・中学2年生、3年生を対象に英語検定における相当級を診断する英検IBAを継続実施し、生徒の英語力向上を図った。 ・英語検定受験の補助制度に関しても継続実施し、英語検定受験の勧奨を行った。 ・英語サマーワークショップを通じて楽しく英語に触れる機会を提供した。 【成果】 ・2名のALTは子どもたちや教職員からの評判も良く、楽しい授業を展開している。All Englishの授業が浸透し、コミュニケーション能力の向上を図ることができている。 ・英検IBAは国の目標である「中学卒業段階で英検3級以上の英語力を持つ生徒の割合50%」を若干下回った。(中学3年生:47%)。 ・サマーワークショップは小学生27名のほか、前日準備も含め東濃高校生8名がボランティアとして参加し、連携を深めることができた。 ・英語検定補助については46名と昨年度比26名の増加となっている。 【課題】 ・IBAの実施時期が2学期中旬であり、生徒への結果の反映が遅くなることから、令和7年度は実施の時期を検討する必要がある。 (ICT教育) 【取組内容】 ・タブレット端末においてはデジタル教科書やロイロノートの活用を進めている。 【成果】 ・どの学校もMicrosoft Teams等を活用し、クラウドを活用した双方向の授業を進めることができている。 ・指導体制の充実とともに、学校内部でも率先してロイロノートを活用した授業実践を行っており、となる教職員が全体の資質向上に努める姿が引き続き見られている。 【課題】 ・1人1台タブレット端末の導入から4年を経過しており、修理が不可能な故障端末が増え、代替機の確保も難しく、1人1台の割り当ても不可能となっている。令和7年度には端末更新があり、改めてタブレットを有効に活用する方法やメンテナンス方法を検討する必要がある。	B	学校教育課
2-1	青少年の健全育成	・家族の絆を深めることができるように、家庭教育を継続的に支援します。	【取組内容】 ・令和6年度も、各期ごとに内容を工夫して家庭教育学級を行った。また、家族での参加ができるように家族学級やクリスマス会、ふれあい人権子育て公演会を開催した。 ・令和6年度家庭教育学級の開催(家族学級・クリスマス会など)及び、ふれあい人権子育て講演会を開催した。 ・長期休暇を利用し家族と一緒に取り組む一家庭一実践を在宅活動として実施した。 【成果】 ・「一家庭一実践」では、各家庭内で決めた役割(洗濯・掃除・料理など)を実施し、子どもの自主性や責任感の成長に繋がった。活動を通じて、普段当たり前に接している家族を改めて見つめ直し、家族の大切さや家族の一員としての役割に気づき学ぶ機会になった。 【課題】 ・ふれあい人権子育て講演会は各家庭教育学級合同の運営により開催したが、一般の参加は多かったものの、学級生の参加が想定より少なかったため、今後は周知方法を改善したい。	A	生涯学習課

○御嵩町第五次総合計画 方針別基本計画実績等一覧(全75施策(所属別評価:79項目))

A：計画通り（達成率75%以上）		49
B：概ね計画どおり（達成率75%未満～50%以上）		30
C：あまり進んでいな（達成率50%未満～25%以上）		0
D：全く進んでいない（達成率25%未満）		0

0	単位施策	施策の内容	令和6年度実績		
			実施した取組内容と成果及び課題	評価	担当課
2-1	青少年の健全育成	・地域と家庭と学校の連携を強化して、開かれた学校運営と地域における教育を進めます。	【取組内容】 ・ふるさとふれあい夢づくり事業を継続実施し、米づくり、大豆づくり等地域の人材と連携した活動のほか、環境学習や職場体験などに取り組むとともに、地域行事へのボランティア参加など地域に働きかける活動を展開した。 ・町内全ての小中学校において学校運営協議会を設置し、地域の力を学校運営に生かし、コミュニティスクールを展開した。 【成果】 ・学校運営協議会は各学校学期に1回程度行うことができ、より活発な意見交換等を展開できた。 ・上之郷小学校区の放課後子ども教室は地域の方を講師として、地域交流を進めることができた。 ・学校運営協議会間の交流会を年2回位置付け、他校での取組の成果や課題を交流し、協議会のあり方について考えることができた。 【課題】 ・各校の運営状況や内容を、教育委員会が把握できる体制を整える必要がある。	B	学校教育課
2-1	青少年の健全育成	・青少年が非行や犯罪に巻き込まれないように、自立心や社会性を育む体験活動などへの参加促進や社会参加の機会を提供するなど、青少年の健全育成を進めます。	【取組内容】 ・あいさつ運動を中心に、青少年の健全育成活動を推進した。 ・少年の主張大会、街頭啓発活動、大型店舗パトロール、家庭の日イラストコンクールは計画通り実施することができた。また、郡PTAと連携して可児郡PTA研究大会と青少年育成町民大会を同時開催することができた。 ・町民会議たよりを活用し、青少年育成町民会議の活動を広く紹介し、活動への参加の呼びかけを行った。 【成果】 ・少年の主張大会において最優秀賞者と高校生の発表については、動画配信を試み、多くの方の視聴があった。 ・家庭の日のイラストコンクールの応募が638点(小学生:348点 中学生:290点)あり、入賞作品は家庭の日の普及啓発ポスターに活用された。 【課題】 ・青少年育成町民会議では第3日曜日の翌日にあいさつ運動を実施している。健全育成の機運を高めるため、全町的にあいさつ運動が広がっていくように周知、啓発について引き続き検討する必要がある。 ・ここ数年のコロナ禍の接触を避けるという影響で、子どもたちに積極的に声をかけるような「歩きたい」の活動が機能していないため、この機に「歩きたい」から子どもの見守り活動を含めた県が行っている「地域のおじさん・おばさん運動」への参加移行を考える必要がある。	A	生涯学習課

○御嵩町第五次総合計画 方針別基本計画実績等一覧(全75施策(所属別評価:79項目))

A：計画通り（達成率75%以上）		49	
B：概ね計画どおり（達成率75%未満～50%以上）		30	
C：あまり進んでいな（達成率50%未満～25%以上）		0	
D：全く進んでいない（達成率25%未満）		0	

0	単位施策	施策の内容	令和6年度実績		
			実施した取組内容と成果及び課題	評価	担当課
2-1	ふるさと教育の推進	・子どもが地域にふれあう機会を充実し、ふるさとへの愛着を育むとともに、地域づくりに必要な豊かな発想を持つ人材を育成します。	【取組内容】 ①公民館と地域の中で多様な経験や技能を持つ人材等との連携により、土曜日等に地域文化の体験や農業体験学習・ドローン体験などの「地域子ども教室」を各公民館で開催し、豊かな創造性や人と環境にやさしい意識を育むための機会とし、子どもたちのより豊かで有意義な学習の場づくりを計画した。 ②『愛の絵手紙＆一行詩』の取り組みを行った。 【成果①】 ・「上之郷公民館」 茶道他 大人49人・子ども80人 計129人 ・「御嵩公民館」 田んぼの学校他 大人281人・子ども253人 計534人 ・「中公民館」 野菜塾 大人92人・子ども34人 計126人 ・「伏見公民館」 座禅会他 大人26人・子ども28人 計54人 【成果②】 ・令和6年度は、御嵩小学校、上之郷小学校、公民館へ出前講座を実施し、直接子どもやその保護者へ絵手紙の魅力を伝えることができた。広報等を積極的に利用することで1,527点の応募があった。（前年1,632点） 【課題①】 ・開催方法を工夫し、可能な範囲で講座を開催することが求められる。 ・今後も参加者への周知・募集方法や人員の確保の仕方、地域コーディネーターの設置、活動ボランティアの確保などが課題となっている。 【課題②】 ・乳幼児の応募が少ないため、参加促進のための工夫が必要である。成人の参加者が一定化しており、多様な年齢の応募者の参加を促進するための工夫が必要である。 ・小中学校からは全校生徒に近い参加者数がでてくるが、成人の部の参加者数は減少している。住民の方にも活動に参加していただけるよう活動の周知に尽力する必要がある。	A	生涯学習課
2-1	ふるさと教育の推進	・町民や特に次世代を担う子どもたちがふるさと「みたけ」に誇りを持つことができるように、魅力ある催しや地域活動の展開を支援します。	【取組】 ・乳幼児学級では、学級生が講座を選び参加できるように柔軟性をもたせ、親同士のつながりをより持つことができた。 ・0歳児学級では、子育てサロンを学級毎に実施。保護者同士の情報共有や悩み相談の場を増やすことができた。 ・幼保学級では、園行事との連携、在宅取組、ワークショップなど、それぞれに工夫を凝らして学級を運営できた。 ・小中学級では、対面での学級が再開。高校視察や見学会などで、親同士の交流の場を設けることができた。 【成果】 ・0歳児学級参加者 大人235人・子ども241人 ⇒計476人 ・乳幼児学級参加者 大人268人・子ども292人 ⇒計560人 ・幼保学級参加者 大人578人 ・子ども347人 ⇒計925人 ・小中学級参加者 大人1,033人・子ども635人 ⇒計1,668人 ・合同学級参加者 大人142人・子ども83人 ⇒計225人 ・0歳児学級では、学級毎にサロンを開催したため、学級生同士の繋がりが密になり、共感しあうことにより、きずな通信での悩みが減った。 ・（幼保）働く親の参加を促すため、在宅取り組みに加え園行事に合わせて学級を行い、参加機会の幅が広がった。 ・（小中）食育講演会に合わせて給食試食会を実施したことにより、保護者自身も日々の食生活での気づきの機会となった。 【課題】 ・（0歳児）出生数の激減で対象者が減っている。また、直接勧誘できる機会が限られているため、勧誘活動の方法を模索している。 ・（乳幼児）予算の関係上、呼ぶことができる外部講師が限られる。 ・（小中）学校の家庭教育学級担当者への説明会を3月に行うため、4月の人事異動で変わった先生が詳細を把握できていないことがあった。新年度になってから、個別で説明会を実施する必要がある。	A	生涯学習課

○御嵩町第五次総合計画 方針別基本計画実績等一覧(全75施策(所属別評価:79項目))

A：計画通り（達成率75%以上）			49		
B：概ね計画どおり（達成率75%未満～50%以上）			30		
C：あまり進んでいな（達成率50%未満～25%以上）			0		
D：全く進んでいない（達成率25%未満）			0		
0	単位施策	施策の内容	令和6年度実績		
			実施した取組内容と成果及び課題	評価	担当課
2-2	人権の尊重	・町民一人ひとりが家庭や学校や職場、地域社会のあらゆる場面で人権を尊重して行動し、性別や出身地・国、文化的背景、感染症患者などへの差別をなくし、みんなが共生する明るい住みやすい社会を築きます。	【取組内容】 ・一般町民に対し、人権教育、人権啓発を図ることにより、明るく住みやすい町づくりを目指す。 【成果】 ・県補助金(人権教育・啓発推進事業補助金)を活用した下記事業の実施。 人権啓発物品の購入、配布(福祉子ども課) 愛の絵手紙&一行詩 参加賞としての啓発物品購入、配布(生涯学習課) 人権映画会開催による啓発活動(生涯学習課) 人権講演会、人権子育て講演会開催による啓発活動(生涯学習課) 人権子育て講演会への手話通訳者派遣(生涯学習課) ・人権擁護委員による人権相談の開催(年間5回、広報誌で周知) ・人権擁護委員による幼、保、小中学校などでの啓発活動 ・人権懇話会の開催による町内関係機関同士の取組情報共有及び、講師を招いての研修によるリテラシー向上(福祉子ども課) 【課題】 ・R5年度より改訂運用されている御嵩町人権施策推進指針に沿って、インターネットやSNSによる人権侵害、LGBTQ差別等、新たな人権課題を認識し、より幅広い層へ向けた地域共生施策の検討が必要である。 制服の自由化、外国籍児童など、教育機関における人権課題が多様化・複雑化している状況が見受けられるため、単一の課でなく、教育機関との連携等、横断的な検討体制を構築していく必要がある。	B	福祉子ども課
2-2	男女共同参画の推進	・町民一人ひとりが固定的な性別役割分担にとらわれず、互いに尊重しあい、自分らしい生き方を実現できるまちを目指します。	【取組内容】 ・懇話会委員による寄稿文の広報掲載(毎月)、男女共同参画週間の周知、人権講演会での啓発活動を通して、住民への意識啓発を行った。 ・男女共同参画プランの進捗管理を行い、男女共同参画懇話会に報告した。 ・県主催の関連行事等をホームページ等を利用し周知を図った。 ・令和5年度アンケートや、国・県の動向を踏まえながら、男女共同参画懇話会とともに次期プランの策定を進めた 【成果】 ・女性の人権が尊重されていないと感じることが、「特にない人」の割合 6.4% 進展あり ・「男性は仕事、女性は家庭」という考え方の人の割合 8.1% 進展なし ・男女の立場が、職場では平等であると思っている人の割合 30.6% 順調 ・男性も女性も共に介護すべきであると思っている人の割合 58.4% 進展なし ・DVの被害・加害者で「相談場所がわからなかった」ため相談しなかった人の割合 8.6% 順調 ・第5次男女共同参画プラン策定完了(子ども向け解説を新たに追加) 【課題】 ・男女共同参画に関する講演会の実施に際しては、より多くの来場が見込めるテーマの選出、ワークショップ形式のような能動的なプログラムの採用、他イベント・他市町村と連携など多様な方法を、懇話会からのアイデアを取り入れながら検討する必要がある。	B	企画課
2-2	生涯学習の推進	・町民の心豊かな生活や生きがいづくりのために、地域の特性に応じた公民館活動の充実と、町民が気軽に参加でき、世代間や他地域との交流を促す生涯学習の機会の充実を進めます。	【取組内容】 ・公民館講座と公民館行事の支援として、4地区公民館の地域性と指導者の持ち味を生かした講座を展開し、「手作りこんにゃく講座」、「地域防災講座」、「寄せ植え講座」など多種多様な事業を実施した。 【成果】 全11講座を実施することができた。 ①地域で一緒に防災を考える「地域防災講座」⇒参加者20名(大人20名) ②上之郷で栽培したこんにゃく芋を利用した「手作りこんにゃく作り」⇒参加者21名(大人21名) ③人気のある寄せ植えをお正月用に応じする「寄せ植え講座」⇒参加者16名(大人16名) ④地域の人材を活用した「トールペイント講座」⇒参加者18名(大人18名) ⑤上之郷公民館祭りに合わせて開催「カレンダー作り」⇒参加者35名(大人28名 子ども7名) 【課題】 ・新たな地域住民のニーズを見据えた講師の発掘や、オンラインによる講座の開催など講座の在り方を検討する必要がある。 ・新規の参加者確保が難しい中で、積極的にPRを進めていく必要がある。とくに地区ごとに開催具合に差異があるので、まんべんなく活動を提供していく必要がある。	A	生涯学習課

○御嵩町第五次総合計画 方針別基本計画実績等一覧(全75施策(所属別評価:79項目))

A：計画通り（達成率75%以上）		49
B：概ね計画どおり（達成率75%未満～50%以上）		30
C：あまり進んでいな（達成率50%未満～25%以上）		0
D：全く進んでいない（達成率25%未満）		0

0	単位施策	施策の内容	令和6年度実績		
			実施した取組内容と成果及び課題	評価	担当課
2-2	生涯学習の推進	・成熟社会を迎えている中で地域においてますます求められる、歴史文化の継承、環境、福祉、健康づくり、食育、地域産業、ボランティア活動などを学ぶ機会を充実するとともに、その経験を生かすことができる機会を提供します。	【取組内容】 ・住民のニーズをふまえた内容と町の方針をふまえた成人講座を実施し幅広い学びができるようにした。 【成果】 (各5コース講座 全7回、開催は全34回 1回休講) 出席総数 568名(昨年より11名増) ・「御膏を知る」 男性7名・女性25名 計32名 延べ151名(昨年より63名減) ・「古典文学」 男性0名・女性9名 計9名 延べ45名(昨年より20名減) ・「ライフアップ」 男性3名・女性14名 計17名 延べ95名(昨年より21名増) ・「手作り工芸」 男性1名・女性22名 計23名 延べ136名(昨年より35名増) ・「健康づくり」 男性1名、女性29名 計30名 延べ141名(昨年より5名増) ・受講者層は70代が圧倒的に多く、受講者の高齢化が年々進んでいるなかで受講者が増加した。 ・受講者が少なかった「総合英会話」を「ライフアップ」に名称変更し、現代社会の様々な側面を広く学習し社会への参加意欲を持ち続けるきっかけづくりの講座としたことにより受講者が増えた。 ・古典コースからは古文書同好会が発足するなど、「やってもらう講座」から「自分たちで主体的に取り組む講座」の実現へ向けた主体的な動きが出てきた。今後も当番活動で早く来て受付や会場設営をするなど組織的な動きをして自主性を育みたい。 【課題】 ・参加者全体の男性が占める割合は12名(11%)で昨年より減少傾向である。男性の参加率が上がるような方策を検討したい。	A	生涯学習課
3-1	地域自治の強化	・地域における防災や防犯、地域福祉、環境保全などの活動の必要性について自治会・町民の理解を促し、住民自治力を強化します。	【取組内容】 ・自治会活動に対し、自治振興報償費の交付や花苗の配布をし、活動の支援を行った。 ・自治会加入促進パンフレットを作成し、転入者に自治会加入を進めながらパンフレットを配布し、積極的に勧奨した。 【成果】 ・自治会長連絡協議会を開催するなどして、地域自治会活動の連携や情報交換をすることができた。 ・春、秋あわせて9,940株を希望する自治会へ配布し、地域活動の支援を行った。 【課題】 ・年々、自治会未加入者が増加傾向となっている中で、自治会加入者をつなぎ留める方法や住民自治を活発化させる方策を検討していくことが今後の課題である。 ・自治会加入を敬遠される一因である、兼務職や回覧物の削減を町全体の問題として検討する必要がある。	B	住民環境課
3-1	地域自治の強化	・地域でのさまざまな活動に取り組むためのコミュニティリーダーを育成するとともに、町民が交流する機会づくりや、集会施設の整備などを支援します。	【取組内容】 ・集会施設の整備について、建設や改修に必要な資金の一部を補助することにより、集会施設の充実を図った。また、コミュニティ助成事業補助金を活用し自治会活動のための備品を購入した。 【成果】 ・令和6年度は、2自治会 5,161,933円(長岡5,000,000円、共和台161,933円)を補助した。 【課題】 ・今後も集会施設の耐震化等が進んでいくよう補助制度の周知、啓発を継続する必要がある。 ・既存の集会施設が老朽化する中で修繕、建て替えについては補助があるが、取り壊しについては補助がない。(被災した集会施設についてはある)今後検討が必要ではないか。	A	住民環境課

○御嵩町第五次総合計画 方針別基本計画実績等一覧(全75施策(所属別評価:79項目))

A：計画通り（達成率75%以上）			49		
B：概ね計画どおり（達成率75%未満～50%以上）			30		
C：あまり進んでいな（達成率50%未満～25%以上）			0		
D：全く進んでいない（達成率25%未満）			0		
0	単位施策	施策の内容	令和6年度実績		
			実施した取組内容と成果及び課題	評価	担当課
3-1	地域自治の強化	・地域でのさまざまな活動に取り組むためのコミュニティリーダーを育成するとともに、町民が交流する機会づくりや、集会施設の整備などを支援します。	【取組内容】 ・新たな取り組みとして、9月の総合防災訓練に準備会から参加する町内小中学生を募集した。 ・御嵩町防災アカデミーの募集案内を自治会をはじめ、町内小中学校や高校にも配布し、幅広い年代への参加を促した。 ・全町自治会長会において、継続事業として実施している自主防災組織に対する補助金の案内を実施した。 【成果】 ・防災リーダーが新たに19名誕生し、内9名が防災士の資格を取得した。 ・10代の防災リーダーが2名誕生するなど、若年層のリーダー育成も進んでいる。 ・9月の総合防災訓練の計画～本番に17名の小中学生が参加し、多様な世代の交流機会を創出することができた。 ・町内の自治会が自主防災組織に対する補助制度を活用し、無事ですタオルの購入や一次避難所となる集会所に空調設備を整備などを行った。 【課題】 ・過去13回にわたり開催してきた御嵩町防災アカデミーの実施により、防災リーダーの人数は年々増えているが、防災訓練などに参加する防災リーダーの顔ぶれが固定化されているため、防災リーダーの活用方法に工夫を加えることで1名でも多くの防災リーダーに活動に参加していただき、自助・共助の底上げが必要である。	A	総務課
3-1	地域自治の強化	・地域でのさまざまな活動に取り組むためのコミュニティリーダーを育成するとともに、町民が交流する機会づくりや、集会施設の整備などを支援します。	【取組内容】 ・子育てに関する不安や子育て中の保護者の孤立の状況の軽減を図り、日常の子育てを楽しく安心して出来るよう、子育て支援センター「ぽっぽかん」を中心として子育て相談や親子教室等様々な支援事業を実施した。 ・親子教室 19回 ・誕生会 12回 ・身体測定 12回 ・作って遊ぼう 10回 ・りんご保育園看護師による相談4回 【成果】 ・ぽっぽかんへ来館することで、子育て情報の取得や保護者同士が交流するだけでなく、ふれあいサロンを利用するなかで多世代交流が図られ、子育て支援のひとつとして役立てることができた。 ・町外在住の利用が再開され、保護者同士の交流の広がりを得ることができた （令和6年度 ぽっぽかん利用者） 子ども 4,489人、おとな 4,017人 （令和6年度 ふれあいサロン利用者） 2,743人 ・生後1か月から1歳半親子の利用が増加傾向にあった。 【課題】 ・多子家庭の児や保護者の支援や、他の親子とのふれあいを重荷に感じている保護者の支援、転入してきた児と保護者の支援など子育て支援センターが仲介し、育児の孤立を防ぐことを目的とし、コミュニティーを広げる機会を設定していく。	A	福祉子ども課

○御嵩町第五次総合計画 方針別基本計画実績等一覧(全75施策(所属別評価:79項目))

A：計画通り（達成率75%以上）			49		
B：概ね計画どおり（達成率75%未満～50%以上）			30		
C：あまり進んでいな（達成率50%未満～25%以上）			0		
D：全く進んでいない（達成率25%未満）			0		
0	単位施策	施策の内容	令和6年度実績		
			実施した取組内容と成果及び課題	評価	担当課
3-1	地域自治の強化	・地域でのさまざまな活動に取り組むためのコミュニティリーダーを育成するとともに、町民が交流する機会づくりや、集会施設の整備などを支援します。	●行方不明高齢者等SOSネットワーク 【取組内容】 ・事前登録の認知症高齢者が行方不明になった際、協力機関(個人、事業所)と連携して搜索する、生命と安全を守るネットワークを推進するため、運営協議会を開催した。また、可児警察署と事前登録の方を情報共有することで、連携強化を図る。 【成果】 ・運営協議会を1回実施。事前登録者2名増加。可児警察署との事前情報共有を図ることが出来た。 【課題】 ・行方不明時の情報発信をファックスやメールの方法ではなくなったことで、事業協力者、企業との連携が図れなくなる。地域の高齢者の見守り機能として今後も事業協力していただくよう、模擬訓練等で連携の仕組み作りと活動の周知を行っていく。 ●運動教室 【取組内容】 ・自治会集会所での介護予防体操自主教室の運営支援を行うことで、近隣住民の方々の交流を図ることができた(本郷)。また公民館での介護予防教室を開催することで、地区を超えた交流ができています。 【成果】 ・住民の方が活発に地域の中を動くことで、介護予防だけでなく、防犯にもつながっている。 【課題】 ・継続し活動を続けることが必要である。 ●ボランティア(げんきボランティア65など) 【取組内容】 ・高齢者ボランティアによるサロン等の活動に対し、ポイントを付与する制度「げんきボランティア65」にて活動を支援した。 【成果】 ・指定ボランティアは20団体(前年度比△2団体)、284人(前年度比△22人)のボランティアの支援を行っている。 【課題】 ・新型コロナウイルスの影響で活動を休止していた団体の内、再開見込みが無い団体とその個人のボランティア登録を削除した。引き続き、登録団体への支援と、新規団体立ち上げの支援を継続する。	B	保険長寿課
3-1	地域防災活動の推進	・地域が主体となって、地域の課題を把握して、みんなでより良い地域をめざすためのビジョンや計画づくりを支援します。	【取組内容】 ・町民参加型の総合防災訓練を実施する予定で準備会3回を実施したが、台風のため中止となった。 ・その後、代替訓練として、11月3日に伏見地区にて、防災リーダー会及び町が主体の地域住民と連携した炊き出し訓練を、12月1日に防災リーダーフォローアップ研修を活用した炊き出し訓練をそれぞれ実施した。 ・防災リーダー会を活用し、防災アカデミーと防災士資格取得に向けた積極的な参加の呼びかけを行った。 【成果】 ・総合防災訓練は中止となったが、代替訓練では防災クッキングなど、参加しやすい訓練を実施できた。 ・代替訓練は地区の防災リーダーが中心で計画したため、自分達の地域は自分達で守るという意識の醸成に繋げることができた。 【課題】 ・令和5年度に大久後自治会において策定された地区防災計画を町内自治会に横展開していくことが求められる。 ・個別避難計画の作成が法律において努力義務化されたことや地区防災計画を作成することの重要性について、地域の方の理解を深めるための行政としての支援が必要である。	A	総務課

○御嵩町第五次総合計画 方針別基本計画実績等一覧(全75施策(所属別評価:79項目))

A：計画通り（達成率75%以上）			49		
B：概ね計画どおり（達成率75%未満～50%以上）			30		
C：あまり進んでいな（達成率50%未満～25%以上）			0		
D：全く進んでいない（達成率25%未満）			0		
0	単位施策	施策の内容	令和6年度実績		
			実施した取組内容と成果及び課題	評価	担当課
3-1	地域防災活動の推進	・地域において自助、共助の意識を高めるとともに、自分たちの住む地域を守るためのハザードマップづくり、防災訓練などの取組を促します。	【取組内容】 ・町内の小学校(上之郷小学校)を対象とした防災教室を実施し、若年層に対する自助・共助の重要性を伝えた。 ・広報誌において、災害時の避難手順、ハザードマップの危険箇所や避難時の確認事項を周知した。 【成果】 ・上之郷小学校の防災教室では様々な体験をしながら防災の重要性を伝えることができた。主体的に防災に取り組むことで、自ら防災に関わる意識を醸成することができた。 ・広報紙「ほっとみたけ」モニターアンケートで多くの町民が避難経路の把握、非常時持ち出し品の準備など、防災に備えているということが分かった。 【課題】 ・災害時の被害を減らすため、効果的な事前準備の啓発方法を引き続き考えていきたい。	A	総務課
3-2	地域福祉活動の推進	・関係各機関と連携して生活支援の体制を構築することで地域における生活課題の解決を促進するとともに、地域福祉の担い手の育成を進めます。	【取組内容】 ・社会福祉協議会への補助事業を通じて、ボランティア育成及びボランティア活動の充実を図った。 ・災害ボランティアセンターについて社会福祉協議会と設置訓練を行う等連携を図った。 【成果】 ・福祉関係ボランティア登録団体 22団体(増減なし) ・「ちょこっと支え合いサポーター」のべ59人(のべ27日)が活動した。 ・ボランティア活動 のべ176日(個人のべ168人、団体のべ48団体) 活動の内容:福祉車両の運転 75日、施設での行事手伝い 46日など ・ボランティア講座等の開催 5回 内容: 交流会(7/5) 95人参加 夏休み福祉体験学習(7/25) 2人参加 (7/31) 4人参加 災害ボランティア講座(10/6) 53人 災害ボランティアセンター設置運営訓練(10/6) 53人参加 ボランティア講座(3/15) 31人参加 【課題】 ・育成等の活動については定期的に開催できているものの、災害時に対応を担ってもらうためのボランティア登録団体が増加していない。 ・災害ボランティアに関し、コロナ禍以降地域のボランティアを主とするよう変わってきているが、災害時に担っていただける人材の洗い出し等が不十分である。また有事の際円滑な協力を取るため、平時から顔の見える関係づくりの場を形成する必要がある。	B	福祉子ども課

○御嵩町第五次総合計画 方針別基本計画実績等一覧(全75施策(所属別評価:79項目))

A：計画通り（達成率75%以上）			49		
B：概ね計画どおり（達成率75%未満～50%以上）			30		
C：あまり進んでいな（達成率50%未満～25%以上）			0		
D：全く進んでいない（達成率25%未満）			0		
0	単位施策	施策の内容	令和6年度実績		
			実施した取組内容と成果及び課題	評価	担当課
3-2	地域福祉活動の推進	・関係各機関と連携して生活支援の体制を構築することで地域における生活課題の解決を促進するとともに、地域福祉の担い手の育成を進めます。	●協議体 【取組内容】 ・地域の定期的な情報の共有や連携の強化、課題解決のための取組の検討などを目的に協議体を開催。町全体を考える第1層協議体、地区単位を考える第2層協議体を開催。 【成果】 ・前年度、各第2層協議体で挙げた課題を整理して第1層協議体で協議した結果、第1層協議体主催による住民活動の周知のため支え合い活動発表と交流会を開催し、地域への周知に繋がった。42名参加。 ・第2層協議体を年2回ずつ開催し、(1)高齢者の出番について、(2)社会的孤立問題についてを話し合いを行い、個人として地域としてできることを話し合った。第2層協議体をきっかけに町内に2つのつどいの場が立ち上がった。 ・第1層協議体を年3回開催。第2層協議体の開催報告や支え合い活動発表と交流会の開催に向けた話し合いや結果報告を行った。 【課題】 第2層協議体の委員の参加率が地域ごとで差が出ているため、協議体の必要性を周知し、住民主体での話し合いに繋げる必要がある。 ●地域ケア会議 【取組内容】 ・個別ケースの支援内容の検討を通じ個別課題を把握・分析するとともに、地域の課題に対しても把握・分析するための地域包括支援ネットワークを構築し、スキルアップを図る会議(行政、ケアマネ、医師、薬剤師等参加) 【成果】 ・個別会議を6回開催(12事例)、推進会議を3/27に開催。 【課題】 ・事例検討になってしまい地域の課題が何なのかわかりにくい。また専門職からの適切なアドバイスも一般的なアドバイスになりがちになっている。専門的な意見がいただけるよう前もって事例提供者から誰にどのようなアドバイスをいただきたいか確認するなど検討していきたい。 ●みたけケアリンク 【取組内容】 ・介護サービス事業所(ケアマネ)が連携し情報共有により、サービスの質の向上と適正な事業運営を図るため研修等の会議を開催するもの。 【成果】 ・研修会を3回開催 【課題】 ・コロナ前は年6回の研修を行っていたが、年3回の研修(内1回は総会で研修は年2回)となっているため、参加者からは以前の回数に戻し、さらなる質の向上等を目指したいといった要望が出ている。 ●在宅医療・介護連携会議(かけそばネット) 【取組内容】 ・可児市・御嵩町の合同で行政、医師、看護師、薬剤師、ケアマネ、歯科医師等の連携を目的に会議を開催。 【成果】 ・定例会10回、企画委員会3回、交流会1回、講演会1回、講座11回開催し、専門職間の交流を行った。 ・新たに「ツキイチかけそばネット」の名称で市民・町民向け講座を開催した。 ・医療介護専門のコミュニケーションツールを試験的に運用している。 【課題】 ・試験的に開始しているコミュニケーションツールの利用が少ないため、積極的に活用する必要がある。	A	保険長寿課

○御嵩町第五次総合計画 方針別基本計画実績等一覧(全75施策(所属別評価:79項目))

A：計画通り（達成率75%以上）			49		
B：概ね計画どおり（達成率75%未満～50%以上）			30		
C：あまり進んでいな（達成率50%未満～25%以上）			0		
D：全く進んでいない（達成率25%未満）			0		
0	単位施策	施策の内容	令和6年度実績		
			実施した取組内容と成果及び課題	評価	担当課
3-2	地域福祉活動の推進	・さまざまな理由で生活の支援が必要な人に対して、関係機関と連携・協力し早期に適切な支援を受けられるよう努めるとともに、早期自立を促進します。	【取組内容】 ・生活困窮者自立支援事業の一次窓口として、生活に困窮する人の相談を受け、相談内容に応じて適切な支援を受けられると思われる窓口を案内したり、自立相談支援機関(県社会福祉協議会)との連携による家計相談、就労支援を実施した。生活保護相談についても、必要な支援を受けられるよう可茂県事務所と連携して支援を実施した。 【成果】 ・生活困窮者自立支援事業 新規3件 継続2件 終結9件 ・生活保護 新規6件 廃止5件(死亡含む) 【課題】 ・受動的な対応にならざるを得ない現状から、相談に訪れる時点では困窮の度合いが深刻であり支援内容が限られてしまう。令和8年度からの重層的支援体制整備事業の着手に備え、生活困窮関連の相談体制及び、県との連携体制について検討を行う。	B	福祉子ども課
3-2	子育て支援の充実	・多様な保育や子育ての支援を充実し、快適に子育てができるまちとしての魅力を高めます。	【取組内容】 ・第2期子ども・子育て支援事業計画(令和2年度から令和6年度)に基づいて、延長保育、休日保育、一時預かり保育、病児保育など多様な保育サービスを実施。令和6年度より休日保育は、祝日のみを対象とした祝日保育として実施。 ・中保育園の民営化に向けた指定管理による民間運営及び小規模保育事業者を認可 ・子育て支援サービスでは、ファミリー・サポート・センターを運用 【成果】 ・祝日保育の利用者数 21人（他園の園児を伏見保育園で受け入れ） ・一時預かり保育:延べ777人(R5:613人)、八百津町に広域委託している病児保育(伊佐治医院かガール病児保育室)を延べ21人(R5:40人)が利用 ・小規模保育事業者(定員12名)の運営により未満児の保育サービスを確保 ・ファミリー・サポート・センターの利用が34件(R5:7件)。内、離乳食教室時に配布したファミサポの無料券を活用しての利用が7件(R5:6件)あった。 【課題】 ・支援サービスや利用方法について、広く周知できる方法を検討する必要がある。	B	福祉子ども課
3-2	子育て支援の充実	・子どもが歩いて行ける範囲で安心して遊ぶことができる場所の充実に努めます。	【取組内容】 ・御嵩町地区児童公園等福祉施設整備補助金を確保し、自治会長会において周知を行った。 ・児童館(中及び伏見)を指定管理者により運営としており、年間実施計画に基づき、事業を実施した。 【成果】 ・新型コロナウイルスが5類となったことに伴い、イベント等を順次再開した。 延べ利用者数：中児童館 4,750人、伏見児童館 8,608人(両施設ともに小学生は3,000人超となった。) 【課題】 ・自治会管理の公園内の遊具が老朽化により維持が困難という報告が続いている。地域の子どもたちの遊び方が変化しているものの、屋外での遊びは必要であるため、町管理の遊び場以外も確保できるよう協力していく必要がある。	B	福祉子ども課

○御嵩町第五次総合計画 方針別基本計画実績等一覧(全75施策(所属別評価:79項目))

A：計画通り（達成率75%以上）			49		
B：概ね計画どおり（達成率75%未満～50%以上）			30		
C：あまり進んでいな（達成率50%未満～25%以上）			0		
D：全く進んでいない（達成率25%未満）			0		
0	単位施策	施策の内容	令和6年度実績		
			実施した取組内容と成果及び課題	評価	担当課
3-2	子育て支援の充実	・妊娠期から子育て期の切れ目のない支援を充実し、安心して子育てができるように子育て世代に対する包括的な支援を展開します。	【取組内容】 ・こども家庭センター及び保健予防係で月1回支援会議を行い、ハイリスク妊産婦等の要支援者に対する対応方法を検討し、継続的支援に努めた。 ・公認心理師による幼児相談(新版K式発達検査・保護者相談)を実施。発達検査の結果から家庭や園での支援方法について保護者や保育士にアドバイスを行った。 ・保護者の育児不安、発達について把握するため、3歳児のいる町内全世帯に年少児アンケートを配布、実施。保護者の困り感に寄り添い事後のフォローをした。 【成果】 ・支援が必要な子育て世代に対して、各機関と連携を取り、情報を共有しながら継続的支援を行うことができている。 ・公認心理師による幼児相談を実施。:延べ113人に対して実施。(新版K式発達検査50人:相談のみ31人:検査結果のフィードバック32人) ・子育て世代への家庭訪問61回実施、来所・電話等での保護者相談53件、関係機関からの相談167件。園・小中学校等への訪問85回 【課題】 ・保護者が気軽に相談できる環境の整備と、幅広い育児の悩みへの対応の強化の必要がある。	A	福祉子ども課
3-2	高齢者福祉の充実	・高齢者が住み慣れた地域や家で生活できるように、介護予防の強化や生きがいづくりの支援など、地域における包括的な福祉サービスを提供します。	●地域包括支援センター 【取組内容】 ・なんでも相談、介護予防事業、認知症関連事業、権利擁護事業を実施。福祉サービスや各事業について回覧や広報誌等での情報提供。 【成果】 ・高齢者なんでも相談での対応件数が990件。認知症関連事業では認知症カフェを年12回開催し、延べ227名の方が参加(実人数86名)。また、運動教室等が再会となり、参加者も増加している。 御嵩町社会福祉協議会への委託となったが、相談件数の数は伸びており、委託による相談件数減少は見られなかった。 【課題】 ・各教室やイベントが再会し、参加者の数は伸びてきている。ただ、実人数の把握ができていない事業があり、町民のどれほどの方が教室等に参加出来ているか分析が出来ていない。	A	保険長寿課
3-2	障がい者福祉の充実	町民の障がいについての理解を促進するとともに、個別の障がいに応じた支援を充実させるため、相談支援の体制を強化し、障がい者の就労や社会参加を促進します。	●地域包括支援センター 【取組内容】 ・なんでも相談、介護予防事業、認知症関連事業、権利擁護事業を実施。福祉サービスや各事業について回覧や広報誌等での情報提供。 【成果】 ・高齢者なんでも相談での対応件数が990件。認知症関連事業では認知症カフェを年12回開催し、延べ227名の方が参加(実人数86名)。また、運動教室等が再会となり、参加者も増加している。 御嵩町社会福祉協議会への委託となったが、相談件数の数は伸びており、委託による相談件数減少は見られなかった。 【課題】 ・各教室やイベントが再会し、参加者の数は伸びてきている。ただ、実人数の把握ができていない事業があり、町民のどれほどの方が教室等に参加出来ているか分析が出来ていない。	A	福祉子ども課
3-3	地域防災体制の強化	・地域防災計画の見直しを適宜進めるとともに、防災アプリの周知など防災情報の伝達体制や防災拠点の充実など、町の防災体制を強化します。	【取組内容】 ・地域防災計画の改定を行うことができた。 ・広報誌による防災アプリ、すぐメール(防災・防犯)の周知に加え、令和4年度に作成した防災リーダー向けメーリングリストの再周知を実施した。 【成果】 ・上記情報伝達手段に新たに登録した方がおり、伝達体制の拡充が図られた。 【課題】 ・防災リーダーでメーリングリストに登録していただけていない人への周知とDX推進を比較的苦手とする高齢者への情報伝達手段の拡充を検討する必要がある。	A	総務課

○御嵩町第五次総合計画 方針別基本計画実績等一覧(全75施策(所属別評価:79項目))

A：計画通り（達成率75%以上）			49		
B：概ね計画どおり（達成率75%未満～50%以上）			30		
C：あまり進んでいな（達成率50%未満～25%以上）			0		
D：全く進んでいない（達成率25%未満）			0		
0	単位施策	施策の内容	令和6年度実績		
			実施した取組内容と成果及び課題	評価	担当課
3-3	地域防災体制の強化	・自治会単位で自主防災組織の創設を促すとともに、防災倉庫や資機材などの充実、防災リーダーの育成、防災訓練や避難行動要支援者の避難訓練などを進め、地域主体の防災体制を強化します。	【取組内容】 ・御嵩町防災アカデミーを実施した。 ・国の地域防災緊急整備事業に申請し災害用ポータブルトイレやパーテーション、エアーマットなど11品目の防災品を購入する予算を確保することができた。（繰越事業のため購入は令和7年度） ・これまで購入してきたアルファ米に加え、長期保存水や長期保存トイレトペーパーなど新たな備蓄物資を充実させることができた。 ・災害用の乳幼児用スキムミルクについて、これまで備蓄がなかったが、伏見保育園と連携し、通常使用しているスキムミルク缶のストックを増やし、ローリングストックとすることで、効率的に災害備品を準備することができた。追加分は防災安全係で購入した。 【成果】 ・防災リーダーが新たに19名誕生し、累計279名となった。 ・マイノリティにも配慮した備蓄を充実させることができた。 【課題】 ・自主防災組織等に補助制度を活用し、効果的に防災備蓄を進めるよう啓発する必要がある。	A	総務課
3-3	防犯活動の推進	・地域における防犯力を高めるため不審者情報の伝達を行うとともに、自主的な児童生徒の登下校時の見守り、防犯パトロールなどの活動の強化に取り組めます。	【取組内容】 ・児童生徒が登下校する時間帯に、交通安全協会や交通安全女性など、地域のボランティアの連携による継続的な見守りを実施し、防犯力向上に繋げる活動を行った。 ・町職員による青色回転灯パトロールや町職員と地域安全指導員による防犯パトロールを実施し、犯罪の抑止に努めた。 【成果】 ・不審者情報に係る問合せは少ない状況が続いている。 【課題】 ・自治会員や子育て世帯の減少により、自治会によっては活動に参加することが難しくなっており、みんなで地域を守るという意識の醸成が必要である。	A	総務課
3-3	防犯活動の推進	・地域防犯環境の向上を図るため、防犯灯の設置の支援や「子ども110番の家」の充実を促します。	【取組内容】 ・防犯灯設置補助金を交付することにより、温室効果ガスの削減による低炭素社会の実現とLED式防犯灯による防犯機能の強化を図った。 【成果】 ・LED式防犯灯の設置実績66件（対前年度比約△18%） ・温室効果ガス削減見込みとして『t-CO2（トンシーオーツー）』という単位を用いて成果を検証しているが、毎年のLED式防犯灯の設置により年々削減量が増加しており、削減効果が確認できている。 【課題】 ・「子ども110番の家」は犯罪から子どもを守るよい政策であるものの、見知らぬ子を自宅に招き入れることの抵抗感などから登録件数が年々減少傾向にあるため、制度の見直しを含めて警察との協議が必要である。 ・LED防犯灯は既存の防犯灯からの改修が進み、設置件数が年々減少傾向にあるため、地域防犯環境の改善に資する新たな取り組みの模索が必要。	A	総務課

○御嵩町第五次総合計画 方針別基本計画実績等一覧(全75施策(所属別評価:79項目))

A：計画通り（達成率75%以上）			49		
B：概ね計画どおり（達成率75%未満～50%以上）			30		
C：あまり進んでいな（達成率50%未満～25%以上）			0		
D：全く進んでいない（達成率25%未満）			0		
0	単位施策	施策の内容	令和6年度実績		
			実施した取組内容と成果及び課題	評価	担当課
3-3	交通安全の推進	・交通安全環境の向上を図るために、交通安全施設の整備や交通規則の見直しを要請します。また、誰もが交通事故の被害者や加害者にならないように、交通安全に対する意識を強く持つように啓発活動を強化します。	【取組内容】 ・交通安全協会を中心とした地域のボランティアと、可児警察署等の行政機関の連携による継続的な交通安全立哨を行うとともに、カーブミラーの新規設置や視認性が悪いカーブミラーの早期修繕を行った。 ・自治会等から提出された交通安全施設要望に基づき、交通規制等の指定を要請した。 ・交通安全協会や可児市と連携し、小中学生を対象としたポスター展の実施や啓発ビラ配りの実施を行うとともに、広報誌等による交通安全の啓発に努めた。 【成果】 ・交通安全立哨などの日々の啓発、交通安全施設の設置、交通規制の見直し効果などにより、町内における年間の交通人身事故件数は前年同数の11件となった。 【課題】 ・3年ぶりに町内で交通死亡事故が発生したため、これまでの活動を継続しつつ、より効果的な啓発方法を模索し、事故防止に努めていきたい。 ・日々の啓発活動などは継続して行っているものの、交通事故件数が毎年減少するわけではないので、高齢者を筆頭に車両運転者や歩行者の交通安全意識の高揚を図る活動を継続して行う必要がある。	A	総務課
3-4	健康づくりの推進	・町民一人ひとりが生活習慣に注意するなど、健康づくり意識を高めるとともに、町民の健康づくりのための活動を充実します。	【取組内容】 ・昨年度に引き続き、連携協定を締結している企業等と協力し、健(検)診受診につながるよう声かけ、資料配布による啓発を実施した。 ・健診後の相談・指導では、結果説明会等を設け、一人ひとりが生活習慣改善への取り組みを促すよう働きかけを行い、健康づくり意識の高揚を図り、生涯を通じて健康的な生活習慣を身に付けられるよう活動を展開した。 ・健康づくりのためテーマを絞り、生活習慣病予防のための日常生活の注意点や健診の大切さなどを記事にし、ほっとみたけに掲載・周知した。 【成果】 ・健診結果の説明等を通じ生活習慣の改善について意識の向上を図ることができた。 ・いきいき健康まつり4年ぶりに開催し、健康づくり意識を高めるきっかけとなった。 ・令和3年度から、明治安田生命とも健康づくりに関する協定を締結、企業と協力し、健(検)診の啓発を実施した。令和6年度は、プレ健診参加者165名、特定保健指導参加者64名へベジチェックの測定会を行った。 【課題】 ・健(検)診では継続受診や新規受診ができるように、積極的な受診勧奨が必要。	B	福祉子ども課
3-4	健康づくりの推進	・子どもが健やかに成長するために、母子や乳幼児期からの健康づくりを支援します。	【取組内容】 ・母子保健事業により母子や乳幼児期からの健康づくりを支援した。 ・妊婦健康診査(14回分)、および産婦健康診査、新生児聴覚検査、1か月児健康診査の費用助成を行い、母子の健やかな成長、安全な妊娠・出産の支援を行った。 ・健診や各種相談などにより乳幼児の発達の不安や悩みの解消に努めた。 ・予防接種では、訪問や個別通知、広報などでお知らせをし、確実に実施できるよう支援した。 ・母親学級「プレママサークル」…対象者に案内を送付し、年3回実施した。 ・離乳食教室…調理実習と試食を再開し年6回実施した。 ・育児相談…予約制で月一回実施した。 ・バクバク相談…、個別相談を実施した。 ・10か月相談…個別相談を実施した。 ・がんばりママクッキング…幼児食のおやつと食事の内容で実施した。 ・子ども家庭センター、子育て支援センターとの情報提供交換を月1回の支援会議や各種健診、教室にてスタッフ同士で情報共有を行なった。 【成果】 ・乳児健診…70人に実施　・1歳6ヵ月健診…101人に対し実施　・2歳児歯科健診…94人に対し実施　・3歳児健診…89人に対し実施 ・運動発達相談(月1回開催)…延べ25人に対し実施　・ワイワイひろば(月1～2回開催)…延べ101人の児とその保護者に対し実施 【課題】 ・外国人に対する保健指導において、言語の壁がある。	B	福祉子ども課

○御嵩町第五次総合計画 方針別基本計画実績等一覧(全75施策(所属別評価:79項目))

A：計画通り（達成率75%以上）			49		
B：概ね計画どおり（達成率75%未満～50%以上）			30		
C：あまり進んでいな（達成率50%未満～25%以上）			0		
D：全く進んでいない（達成率25%未満）			0		
0	単位施策	施策の内容	令和6年度実績		
			実施した取組内容と成果及び課題	評価	担当課
3-4	保健予防事業の充実	・若者から高齢者まで幅広い世代に対し、健康教育や健康相談を充実するとともに、心の悩みを抱える町民のサポートを行います。	【取組内容及び成果】 ＜保健師・管理栄養士による健康相談＞ ・定期のいきいき健康相談(46回開催)…延べ65人に対して実施 ・結果説明会(プレ健診・特定健診・すこやか健診事後)…延べ28人に対して実施 ・骨粗しょう症検診結果説明(2回開催)…延べ118人に対して実施 ・乳がん検診(集団)当日の血圧測定と指導(4回開催)…延べ365人に対して実施 ・管理栄養士による栄養指導(14回開催)…延べ45人に対して実施 ＜健康教育(健康教室)＞ ・運動教室(4回開催)…延べ34人に対し実施 ・健康教室(食事)…生活習慣病と慢性腎臓病予防について取り上げ、3回実施して延べ20人参加。 ・男性の料理教室(1回開催)…4人に対し実施 【課題】 ・各種教室や相談における参加者はリピーターが多いため、現在の参加者以外の方々に参加していただくための啓発方法について検討が必要である。	B	福祉子ども課
3-4	スポーツの振興	・町民が身近にスポーツを楽しむことができるように、スポーツ活動を推進する団体の支援や指導者の育成を充実するとともに、社会体育施設の積極的な利用を促します。	【取組内容】 ・スポーツ活動を推進する団体への支援 御嵩町(可児郡)体育協会への支援 ぎふ清流駅伝(2/16) 説明会の開催、試走等補助 可児駅伝(12/8) 準備及び当日の事務支援 御嵩町スポーツ少年団への支援 団員登録、研修申込、会計等の事務支援 種目別交流大会の開催支援(10/6、10/27、11/2、11/9、12/8) ・スポーツ指導者の育成 スポーツ推進委員の研修参加(6/22、8/24、10/12) 海洋性スポーツレクリエーションの指導にあたるボランティア(リーダー)の養成(町新人職員) スポーツ少年団指導者・保護者研修会の実施(5/11) ・社会体育施設の計画的な維持管理(プール上屋膜体取替修繕、プール上屋鉄骨部分一部塗装修繕、プール更衣室トイレ改修、プールろ過機吸い込み配管送水配管改修) 【成果】 ・多くのイベントで昨年度並みの参加人数があった。 ・御嵩町(可児郡)体育協会 可児郡代表チームがぎふ清流駅伝に参加できた。 可児駅伝競走大会が開催された。(34チーム参加) ・スポーツ少年団 指導者・保護者研修会では、講師の先生を招き、多様化するニーズに応えるためそれぞれのスポーツ団体が連携して進めていくことの必要性を学ぶことができた。 【課題】 ・スポーツ少年団の会員(団員)数が、この数年は増加傾向にあるが、コロナ禍以前と比較すると少ないため、活動維持のため新規会員(団員)を確保する必要がある。	A	生涯学習課

○御嵩町第五次総合計画 方針別基本計画実績等一覧(全75施策(所属別評価:79項目))

A：計画通り（達成率75%以上）			49		
B：概ね計画どおり（達成率75%未満～50%以上）			30		
C：あまり進んでいな（達成率50%未満～25%以上）			0		
D：全く進んでいない（達成率25%未満）			0		
0	単位施策	施策の内容	令和6年度実績		
			実施した取組内容と成果及び課題	評価	担当課
3-4	食育の推進	・町民の豊かな食生活を実現するために、学校・家庭・地域や地元農家などが連携して、安全な食の確保と食育を推進します。	【取組内容】 ・高校生の食育事業・・・町内2か所の高校で「高校生の食育事業」を実施し、塩分や野菜の摂取についての話と調理実習を行った。 ・生涯学習課が実施する「乳幼児家庭教育学級」で、食生活改善推進協議会と連携して、幼児期のポイントや野菜クイズなどの講話を行った。 ・離乳食教室や幼児食教室(がんばりママクッキング)の実習も実施し、月齢や年齢に合わせた食事のポイントについて啓発できた。 ・20歳代、30歳代の健診と結果説明会で、明治安田生命によるベジチェックを実施した。 ・男性の料理教室も実施し、缶詰めや乾物を使用し手軽にできる調理実習を実施した。 ・生涯学習課の依頼で成人講座を実施し、適正な塩分濃度のみそ汁の試飲や減塩についての講話を行った。 ・公民館が実施する防災講座やたんぼの学校では、食生活改善推進協議会と連携して、災害時の食事の試食や旬の食べ物の話をした。 ・健康教室で病態についての講話と、食生活改善推進協議会と連携して健康料理の試食を提供した。 ・広報誌に健康料理の掲載をした。 【成果】 ・高校生の食育事業では、正しく野菜の摂取量を理解したのは83.3%、塩分摂取量の理解は58.3%、91.7%の人が今後の食生活に活かせることが見つかった。 【課題】 幼児食の教室では参加者が少ないのが課題であったため、家庭での食生活に活かしてもらえるよう、写真付きのレシピを健診で配布することにした。	B	福祉子ども課
4-1	観光魅力の向上	・御嶽宿や伏見宿の保全・再生はもとより、地域の歴史や自然などの資源を改めて見直し、その資源を大切にしながら、町民、各種団体、事業者などが一体となって、観光拠点の活性化や特産品の開発、販売促進を進めます。	【取組内容】 ＜行政及び各種団体による観光PR、ええもんPR等の実施＞ ・みたけのええもんの新規認定(2品) ・町外でのみたけのええもんキャラバン活動 ＜魅力向上の為に町民団体による事業の実施＞ ・御嶽宿さんさん広場、御嶽宿わいわい館、御嶽宿内ごみ集積場の景観修景 ・宿の市(4、12、2月が第一日曜日、8月が金曜日に開催 200名程度)など、町民団体主催による事業の実施 【成果】 ・みたけのええもんに新たに2品(みたけのれーもんドーナッツ、志野湯呑)が認定された。 ・関ヶ原古戦場記念館で生産者である上之郷中学校生徒が参加したキャラバン活動を実施しPRを行った。 ・宿の市、金の御朱印、あずマルシェ等の町民団体主催のイベントが開催された。 【課題】 ・「みたけのええもん」の新規認定やキャラバン活動、宿の市の開催により地域の魅力発信が進む一方、認知度の向上や販路の拡大にはさらなる取り組みが必要である。特に、観光客のリピーター化や特産品の持続的な需要創出が求められる。 ・観光イベントは地域活性化に寄与しているものの、規模の拡大や若年層を含む多様な層への訴求が課題である。また、町民団体による活動には成果が見られるが、担い手の高齢化や次世代への継承が懸念される。今後は、地域資源のブランド化と広域連携に加え、インバウンドを視野に入れた観光戦略を推進する必要がある。特産品や観光資源の魅力を国内外に向けて発信し、地域全体の持続的発展を図っていきたい。	A	まちづくり課

○御嵩町第五次総合計画 方針別基本計画実績等一覧(全75施策(所属別評価:79項目))

A：計画通り（達成率75%以上）		49			
B：概ね計画どおり（達成率75%未満～50%以上）		30			
C：あまり進んでいな（達成率50%未満～25%以上）		0			
D：全く進んでいない（達成率25%未満）		0			
0	単位施策	施策の内容	令和6年度実績		
			実施した取組内容と成果及び課題	評価	担当課
4-1	“おもてなし”の充実	・町民と来訪者とのふれあいを通して、御嵩の魅力を伝えていくため、町民のおもてなしの心の醸成、案内・ガイドの人材育成ならびに交流・ふれあい体験の開催などを進めます。	【取組内容】 来訪者へのおもてなし目線での以下整備等の実施 ・御嶽宿わいわい館の修繕　・観光ボランティアガイドの体制整備（倶楽会） ・中山道往来におけるコース上でのおもてなしの実施 【成果】 ・11月2日に予定されていたイベント「中山道往来」は雨天により中止。 ・御嶽宿わいわい館でのおもてなしを通じて、外国人観光客との交流やふれあいの機会を得られた。 ・中山道沿いの史跡やみたけのええもんの二次元コード付き魅力動画を日本語版及び英語版で作成。観光施設や現地で解説を視聴できるようにした。 【課題】 ・雨天によりイベントが中止となるなど、天候に左右される部分が課題として浮き彫りになった。 今後の課題としては、まず安定的なイベント開催のための屋内施設の活用や、悪天候時の代替プログラムの整備が求められる。また、観光ボランティアガイドの体制整備については、活動の継続性を確保するため、担い手の育成やモチベーション向上策が必要である。特に、外国人観光客の増加を見据え、多言語対応力を強化することが重要となる。 ・今後の展望としては、作成した魅力動画を活用したさらなる情報発信が挙げられる。SNSや観光関連ウェブサイトを通じて国内外へ広く発信することで、地域の認知度向上が期待できる。また、わいわい館を拠点とした観光拠点の活性化を進めるとともに、中山道沿いの史跡や施設を連携させた観光ルートの整備を図っていきたい。これにより、地域の歴史や文化を深く知りながら楽しめる環境が整い、リピーターの増加やインバウンド需要の拡大につなげていきたい。	B	まちづくり課

○御嵩町第五次総合計画 方針別基本計画実績等一覧(全75施策(所属別評価:79項目))

A：計画通り（達成率75%以上）		49
B：概ね計画どおり（達成率75%未満～50%以上）		30
C：あまり進んでいな（達成率50%未満～25%以上）		0
D：全く進んでいない（達成率25%未満）		0

0	単位施策	施策の内容	令和6年度実績		
			実施した取組内容と成果及び課題	評価	担当課
4-1	地域振興イベントの魅力向上	・「よってりゃあみたけ～夢いろ街道宿場まつり～」などの地域に定着したイベントをさらに盛り上げていくとともに、多くの人に本町を訪れてもらえるよう、組織の自立的な運営と町民主体による様々な地域イベントの開催を支援します。	【取組内容①】 地域イベント支援の実績 ・大関ヶ原祭への参加 ・鬼岩公園岩穴くぐりガイド付きツアーの実施（鬼岩観光協会 331人） ・よってりゃあみたけ開催（10,000人来場）・福鬼まつり（鬼岩観光協会 1,050人） ・謎解き巡りデジタルスタンプラリー（御嵩町観光協会 213人） ・ひなまつりイベント（御嶽宿・伏見宿のひなまつり実行委員会） 【成果】 ・よってりゃあみたけの会場電源を全てEVからの給電で賄う取組を行い、全国放送で取り上げられたことで、地域の魅力を全国に発信できた。 ・名鉄広見線を使ったスタンプラリーにより名鉄広見線の利用促進と地域の魅力発見につながった。 【課題】 ・「よってりゃあみたけ」におけるEV活用については、EV活用をどのように地域振興に結び付けるかというコンセプトを実行委員会と共有し、具体的な方向性を定めることが求められる。また、地域イベントを持続的に発展させるためには、町民主体の活動を支えるプレイヤーの発掘と育成が重要であり、特に若年層や新たな移住者の参画を促す仕組みが必要となる。 【取組内容②】 ・まちづくり活動等応援補助金事業の実施（5団体：みたまち、嵩遊会、踊月夜、響艶、中山道を盛り上げる会） ・まちづくり団体名簿の更新（登録団体12団体） ・新たなまちづくり活動団体の登録（2団体：行こまい！みたランド、中山道伏見宿古民家活用の会） 【成果】 ・各団体が助成金を有効活用し、地域を盛り上げるためのイベント開催や魅力あるまちづくりの整備が図られた。 ・アニフェス＆城のあずまるしえ（みたまち 6月15日、10月5日） ・桜まつり（嵩遊会 3月29日、30日） ・みたけ南山の桜と踊る（踊月夜 3月30日） 【課題】 ・まちづくり活動に関しては、補助金事業を通じて各団体が地域を盛り上げるためのイベントや整備を進めている点が評価できる。新たな団体の登録も進み、地域活動の裾野が広がりがつつある。しかし、登録団体間の連携や情報共有をさらに促進し、それぞれの活動が相乗効果を生むような仕組みづくりが必要である。また、活動の担い手の高齢化や継続的な活動資金の確保といった課題への対応も重要である。また、住民主体の活動を支援する中で、新しい担い手を発掘し、地域の活性化を次世代へとつなげていくことが不可欠である。	A	まちづくり課
4-2	タウンプロモーションの推進	・町の地域イメージの向上および地域のブランド化を進め、総合的に町の魅力を高めていくことを目指し、タウンプロモーションを展開します。	【取組内容】 ・空き家バンク情報を含む移住者向け情報発信の強化として、アットホームとの連携、ワーブシティへの情報掲載、GIFTS PREMIUM Newsの記事作成を実施した。また、町が管理する「みたけ暮らし」掲載情報の更新作業を進めた。 ・将来にわたり活力あるまちの姿を実現するため、若い世代の定住に資するキャリア教育事業を実施した。 【成果】 ・キャリア教育において、卒業後の就職を想定している東濃高校の生徒が地元企業の協力を得て企業見学を実施し、地元企業の魅力を理解することができた。（1年生：4社、2年生：3社、3年生：2社）特に1年生においては企業見学に加え若手社員との交流会を開催することで、自身のキャリアビジョンを明確し御嵩町で働く将来イメージの深化に繋げることができた。 【課題】 ・「御嵩らしさ」を追求し表現していくために、常に第三者の意見を聴取しながら展開していく必要がある。 ・全庁横断的な情報の集約を進め、ターゲットを明確にしたプロモーションを進める必要がある。 ・就職活動中の若い世代への事業展開ができていないため、新たな戦略を検討する必要がある。	A	企画課

○御嵩町第五次総合計画 方針別基本計画実績等一覧(全75施策(所属別評価:79項目))

A：計画通り（達成率75%以上）		49
B：概ね計画どおり（達成率75%未満～50%以上）		30
C：あまり進んでいな（達成率50%未満～25%以上）		0
D：全く進んでいない（達成率25%未満）		0

0	単位施策	施策の内容	令和6年度実績		
			実施した取組内容と成果及び課題	評価	担当課
4-2	地域情報の発信強化	・さまざまな媒体を活用して、自然や歴史文化、地域産業など地域の魅力を積極的に町内外に情報発信します。	【取組内容】 ・町広報紙「ほっとみたけ」における情報発信はもちろんのこと、10月からリニューアルされた御嵩町公式LINEを中心としたSNSを活用して、積極的な情報発信に努めた。また、外部研修に参加することにより、読者の視点にった広報紙の内容、デザインとなるよう配慮した。より多くの方が気軽に町の情報を知ることができるよう、広報紙がスマートフォンから閲覧できる広報アプリ「マチイロ」やウェブサイトである「Gifu ebooks」での配信を継続しているが、新たな情報発信手段を検討した。 【成果】 ・町民から広報誌が見やすくなったとのご意見をいただくことがあった。9月からは中日新聞社が提供しているLorcleを新たに導入した。 【課題】 ・広報紙をはじめ、SNSによる情報発信を行っているにもかかわらず、掲載している内容が確認されず、問い合わせをいただくことが多々ある。情報が幅広い方に伝わるための手段、方法を再検討する必要がある。	A	総務課
4-2	地域情報の発信強化	・町民が主体となって御嵩町の魅力を理解し、自らが情報発信主体となり情報を拡散することができるように、シビックプライドの醸成と情報スキルの向上、人材育成を図ります。	【取組内容】 ・国の交付金を活用して実施した「「みたけ人」の人材育成を核とした御嵩の魅力情報発信促進事業（令和2～4年度）」を継承し、住民自身がまちに魅力を感じ、それを住民自ら自発的に発信していく人材（インフルエンサー）の育成を目指すため以下2事業を実施した。 ・最新技術を用いて地域の魅力を発信できる人材を育成するため、ITプログラミングに係る事業を実施した。 ・地域企業との協働により、企業PR動画の製作をアウトプットに設定したキャリア教育事業を実施した。 【成果】 ・キャリア教育において、卒業後の就職を想定している東濃高校の生徒が地元企業の協力を得て企業見学を実施し、地元企業の魅力を理解することができた。（1年生：4社、2年生：3社、3年生：2社）特に1年生においては企業見学に加え若手社員との交流会を開催することで、自身のキャリアビジョンを明確にし御嵩町で働く将来イメージの深化に繋げることができた。 【課題】 ・育成した人材が外部流出せず、御嵩町内で働く（就業・起業）ことができる環境を整備する必要がある。 ・御嵩町に関わりのある人材が、関係人口として、町外にいらながらも御嵩町に関与し続けられる仕組みを構築する必要がある。	A	企画課
4-2	地域情報の発信強化	・総合的に地域の魅力を発信していく取組を通じて、より多くの人に「行ってみたいまち」、「住んでみたいまち」、「起業をしてみたいまち」と感じられる魅力あふれるイメージ形成を図ります。	【取組内容】 ・空き家バンク、子育て支援情報、地域の催し案内及び滞在型農業体験施設について「岐阜県御嵩町移住交流・子育て応援ポータルサイト」を活用し、地方創生事業との関連性を深化させるため、随時情報を更新し、情報発信を行った。 ・滞在型農業体験施設の体験型プログラムについて周知、利用促進を図った。 ・移住を促進するための支援制度の充実と、告知チラシのリニューアルを行った。 【成果】 ・移住者受け入れを目的としている空き家バンクを運用した。（令和6年度新規物件登録件数10件、内成約済5件） ・宿泊利用日数135日、宿泊延利用人数751人 ※農林課より ・令和6年4月から、東京圏からの移住支援金に関する子ども加算措置、県外からの移住支援金制度創設、空き家バンク登録物件改修補助制度創設、と3つの移住支援強化制度の運用を開始した。 ・令和6年10月から、地方就職学生支援制度の運用を開始した。 ・情報発信の一環として、県が主催する東京での移住・定住フェアにブース出展した。（相談件数：約10件） ・東京圏から移住された方のインタビュー記事を作成し、ホームページに掲載した。 【課題】 ・移住に関する資金的な支援制度の充実是他市町村と横並びになったため、その他移住者が必要と感じる支援制度の構築及び就業・起業へのサポート制度の充実が必要である。	A	企画課

○御嵩町第五次総合計画 方針別基本計画実績等一覧(全75施策(所属別評価:79項目))

A：計画通り（達成率75%以上）			49		
B：概ね計画どおり（達成率75%未満～50%以上）			30		
C：あまり進んでいな（達成率50%未満～25%以上）			0		
D：全く進んでいない（達成率25%未満）			0		
0	単位施策	施策の内容	令和6年度実績		
			実施した取組内容と成果及び課題	評価	担当課
4-3	将来につなげる農林業の推進	・地域営農組織、新規就農者の育成支援などにより、担い手の確保を図りつつ、地産地消の推進、環境にやさしい農業など未来につなげる農業を展開します。	【取組内容】 ・農地中間管理機構の窓口として、農地の管理等で困っている所有者と営農法人等の農業者を仲介し、営農法人等を中心に施業集約化を進めている。 ・補助メニューを活用し、地元野菜を使用した学校給食を実施した。 【成果】 ・学校給食に地元産の野菜を使用することで地産地消を進めるとともに、子どもたちに地域の農業への意識づけができた。 ・生活改善グループによる小学校2校を対象とした地元産大豆を使用した豆腐づくり体験を行った。体験を通して地産地消に対する意識啓発を行うことができた。 ・耕作放棄地再生活動を井尻地区にて実施した。農業委員会や営農法人内だけでなく、今年度は岐阜県の協力もあり、営農可能な状況まで解消した。当該地は農地中間管理機構を活用し新たな担い手に集積されることになった。 【課題】 ・集積が進んだ結果、農地集積のペースは鈍化しているものの、農地中間管理事業の利用を促進し、人材確保していく必要がある。	A	農林課
4-3	将来につなげる農林業の推進	・森林経営信託などにより計画的かつ着実に森林の整備・保全を進めるとともに、町全域の森林への波及を図ります。	【取組内容】 ・森林保全活動を目的とした森林ボランティア「水土里隊」の活動基盤である隊員の技術支援に努めた。 ・学校の総合学習の時間等を活用して森林学習を行い、水土里隊の支援を受けて山に触れる活動を行った。 ・植林体験を通じて子ども達に森林の機能や大切さを伝えた。 ・可茂森林組合と協議するなどして、森林経営の拡大に努めた。 ・岐阜県の林業就業移住支援事業の活用を図っている。 ・森林信託に隣接する民有林の整備に努めた。 【成果】 ・将来を担う子どもたちの森林への意識を高めるとともに、水土里隊の活動の幅を広げることができた。 ・御嵩町林業就業移住支援事業補助金を予算化している。 ・令和4年度から令和14年度までの第2期森林経営信託により、民有林約11.56haを整備することができた。 【課題】 ・森林学習の参加者は年齢層も幅広いため、豊富な学習メニューが用意できるよう各関係団体と検討する必要がある。 ・林業の担い手の多くが森林組合またはその下請けに限られており、引き続き担い手の確保が課題となっている。 ・御嵩町での林業就業移住支援事業の活用は無かった。	B	農林課
4-3	魅力的な商業・サービス業の育成	・町民の暮らしに必要な店舗を確保し、本町の立地条件を生かした店舗などの誘致を促すとともに、町の魅力化・個性化につながる商業の育成を図ります。	【取組内容】 ・御嵩町副業人材活用事業補助金の新設 【成果】 ・4社が副業人材とのマッチングに成功。そのうち2社は副業人材を活用して経営課題の解決を図った。 【課題】 ・副業人材を活用した4社のうち、実際に経営課題の解決に至ったのは2社にとどまっており、残る2社では具体的な成果が見られなかった。この点から、副業人材の適切なマッチングや、企業側の受け入れ体制の構築に課題があると考えられる。また、事業の継続性を確保するためには、補助金制度の存在を広く周知し、より多くの事業者が積極的に活用できる仕組みが必要である。 今後の展望としては、まず副業人材のマッチングプロセスをさらに精緻化し、企業のニーズに合った人材を確実に結び付ける仕組みを構築することが重要である。また、副業人材を活用した成功事例を積極的に発信し、他の事業者が参考にできる情報を提供することで、事業全体への参加意欲を高めることが期待される。さらに、企業側の受け入れ体制を強化するための研修やサポートを充実させ、副業人材がスムーズに業務に参画できる環境を整える必要がある。	B	まちづくり課

○御嵩町第五次総合計画 方針別基本計画実績等一覧(全75施策(所属別評価:79項目))

A：計画通り（達成率75%以上）			49		
B：概ね計画どおり（達成率75%未満～50%以上）			30		
C：あまり進んでいな（達成率50%未満～25%以上）			0		
D：全く進んでいない（達成率25%未満）			0		
0	単位施策	施策の内容	令和6年度実績		
			実施した取組内容と成果及び課題	評価	担当課
4-3	工業用地の整備と企業誘致	・既存工業団地に工業用地を有する企業に対しては、工場の立地や拡張しやすい環境を整えるとともに、IoTなどの新技術の導入を支援します。また、新たな工業用地の計画を推進します。	【取組内容】 ・企業による工場の新設・増設を支援するための奨励金交付を運用した。 ・工場の新設、増設等に係る工場立地法等に係る相談に対応した。 【成果】 ・御嵩町工場誘致条例に基づく奨励金交付を2件行った。 ・既存進出企業からの相談2件に対応した。 【課題】 ・奨励金の交付対象を製造業に限っていることから、IT企業や研究機関などを対象にできるように他市町村事例を研究しつつ制度改正を進める。 ・既存企業のIoTなどの新技術導入支援についての取組を検討する必要がある。 ・町施策の優先順位を勘案しつつ、工場用地開発可能性調査等の工業用地計画の足掛かりとなる事業を検討する。	B	企画課
4-3	起業支援と雇用機会の創出	・人材育成、創業支援などの取り組みを強化し、町の資源を生かして新たな事業にチャレンジする人を支援し、多様な雇用機会の創出につなげます。	【取組内容】 ・創業支援事業計画に基づく相談窓口の整備 ・先端設備導入促進基本計画に基づく税制支援 【成果】 ・先端設備導入基本計画に係る認定事業者(8件) ・小規模事業者経営改善資金補給申請(4件 168,300円) ・事業者への支援策等を随時HP等で周知するなどの対策を図った。 【課題】 ・起業支援の相談事例が少なく、商工会とさらなる連携を図り積極的な情報発信に努める。また、女性の社会進出のサポート(女性起業家育成)や、地域資源の魅力を高めるため地場産業を生かした起業支援も必要である。 ・伴走型支援だけでなく、観光の産業化にも繋がる新たな創業者への具体的な支援について検討する必要がある。	B	まちづくり課
5-1	亜炭鉱廃坑対策の推進	・亜炭鉱廃坑跡の防災対策を継続的に進めるため、国・県などへの要望を行いながら、「南海トラフ巨大地震亜炭鉱跡防災対策事業」を進めます。また、亜炭鉱廃坑対策の調査研究を進めるとともに、ハザードマップの更新に取り組めます。	【取組内容】 ・令和2年度の国補正により創設された「南海トラフ巨大地震に備えた亜炭鉱跡対策事業(事業期間:令和3年度～令和6年度)」において防災工事及び地盤せい弱性調査を実施した。 R6年度度末に事業完了を迎える本事業の次期(後継)事業の実施について、岐阜県と協力し国への要望(下協議)を行っている。 【成果】 ・防災工事は、第2期地区、第3期地区、第6期地区、第7－2期地区約49haのほか第4-1期(約2ha)の一部の対策(充填)が完了した。 ・要望の結果、国、県において「南海トラフ巨大地震旧鉱物採掘区域防災対策事業」が新設され、本事業の事業主体に御嵩町が決定された。 【課題】 ・令和11年度以降も亜炭鉱廃坑の予防対策が可能となるよう、引き続き国・県などへ要望していく必要がある。 ・亜炭鉱廃坑の調査研究やハザードマップの更新に引き続き取り組んでいく。	A	亜炭鉱廃坑対策室
5-1	治山治水対策	・森林・農地の保水機能を保持するとともに、山地崩壊・土砂流出を予防するための調査ならびに治山・砂防工事を推進します。	【取組内容】 ・森林・農地の保水機能の保持 → 現状で十分に保持されていると考えられるため取組内容なし ・治山・砂防工事の推進 → 御嵩町より要望した箇所については完了しているため取組内容なし 【成果】 ・上記2項目共、取組は無かったが、施策の目標は現状で達成できている。 【課題】 ・事業対象となる箇所は普段人目につかない箇所であるため、今後豪雨等が発生した際、地元からの被害の兆候等を聞き逃さないよう注意する必要がある。	A	農林課

○御嵩町第五次総合計画 方針別基本計画実績等一覧(全75施策(所属別評価:79項目))

A：計画通り（達成率75%以上）			49		
B：概ね計画どおり（達成率75%未満～50%以上）			30		
C：あまり進んでいな（達成率50%未満～25%以上）			0		
D：全く進んでいない（達成率25%未満）			0		
0	単位施策	施策の内容	令和6年度実績		
			実施した取組内容と成果及び課題	評価	担当課
5-1	治山治水対策	・水害防止のための河川改修などについて、計画的に推進します。	【取組内容】 ・井尻川改修事業を推進し、護岸改修を実施した。 ・前沢川、田之頭川の護岸改修を実施した。 ・自治会要望箇所の土砂浚渫を井尻川(井尻川改修事業の上流側)、板良川、権上洞川、番上洞川で実施した。 【成果】 ・井尻川改修事業では、第7工区の工事を令和6年5月に完成できた。また、第8工区の工事を令和7年3月に完成でき、災害(予防)対策を推進できた。 ・土砂浚渫により河川断面を確保し、災害(予防)対策することができた。 【課題】 ・井尻川改修事業では、県道交差付近において、既存橋梁撤去に伴う付替え道路の用地取得等について地権者から同意が得られていないため、地元自治会との継続した協議が必要。	B	建設課
5-1	消防・救命救急体制の充実	・消防の機能や体制の充実を図るとともに、消防団を中心とした地域防災力の強化を進めます。また、救命救急体制の充実に努めます。	【取組内容】 ・可児郡消防連合演習において、4地区消防団と消防署との連携による想定火災訓練を実施し、各団体間の連携強化を図った。また、地元自主防災組織主催の初期消火訓練等にもそれぞれの分団が主体的、積極的に参加した。 ・よつてりゃあみたけなどのイベント(計3回)で、消防団PRブースを出店した。 ・新たに防災リーダーに任命された方に対して普通救命講習会を実施することができた。 【成果】 ・火災出動において、分団間や消防署との中継による円滑な消火活動を展開できた。 ・PR活動を実施することで、消防団活動の意義を対外的にPRすることができた。 ・令和4年度に実施した報酬額の増額と個人支給への切り替えにより、消防団活動に参加する団員が増加傾向にある。 ・負担軽減のための消防操法大会の中止や式典廃止については引き続き中止、縮小して実施した。 【課題】 ・少子高齢化や町外勤務などの理由により、新規消防団員の確保に苦慮している。	A	総務課
5-2	国土強靱化の推進	・大規模災害等に備えて事前の防災・減災と迅速な復旧復興について、産業面やまちづくりを含めた総合的な取組として計画的に実施し、強靱な御嵩町の実現を図ります。	【取組内容】 ・令和2年度に作成した御嵩町国土強靱化地域計画アクションプランの施策評価を実施し、進捗状況を確認した。 【成果】 ・KPIを設定した項目とKPIが未設定の項目については、それぞれ達成率が84％、69％ということで、概ね順調に進捗している。 【課題】 ・ハザードマップの多言語対応など在住外国人や外国人観光客に対するソフト整備が進んでいない。 ・資材の納期遅延により想定工期に遅延が生じた場合に、早期復興に係る取組に不安が残る可能性がある。	A	総務課
5-2	新庁舎建設の推進	・町民が利用しやすい庁舎としての機能を十分に備えた上で、災害時にも安全で災害対策本部機能を十分に果たすことができ、迅速な復旧復興を進める目的をはじめとした新庁舎及び関連施設の建設を推進します。	【取組内容】 ・新庁舎等整備事業の今後の方針を決めるにあたり、議会との一定の合意形成が必要と判断し、「御嵩町及び御嵩町議会懇談会」を設置した。また、具体的な方針に関する「町民説明会」を開催し、本事業の必要性等について広く周知した。 ・現庁舎未耐震の課題を鑑み、仮設庁舎及び北庁舎等への庁舎機能移転の方針を定め、具体的な設計業務に着手した。 【成果】 ・懇談会による集中的な議論により町と議会の一定の合意方針に達したことから、長年の懸案事項であった「位置条例の制定」を上程。全会一致による賛成により、新庁舎の位置は21号バイパスエリアに決定した。 ・事業実施にあたっては、効率的かつ効果的な施設整備を図るため、本町では初の取り組みとなるDBO方式(設計・施工・管理の一括発注)により進めて行く。2月末よりプロポーザル発注し、令和7年6月の事業者決定を目指している。 【課題】 ・新庁舎の設計見直しにあたり、町民の利便性やサービス向上の観点から庁舎に求める機能について、広く町民の意見を聞きながら進めて行く必要がある。このためタイトなスケジュールの中、ワークショップや車座等を開催し意見やアイデアを伺う機会を設ける必要がある。	B	庁舎整備室

○御嵩町第五次総合計画 方針別基本計画実績等一覧(全75施策(所属別評価:79項目))

A：計画通り（達成率75%以上）			49		
B：概ね計画どおり（達成率75%未満～50%以上）			30		
C：あまり進んでいな（達成率50%未満～25%以上）			0		
D：全く進んでいない（達成率25%未満）			0		
0	単位施策	施策の内容	令和6年度実績		
			実施した取組内容と成果及び課題	評価	担当課
5-2	信頼できる医療体制の充実	・感染症対策を念頭に置いて、行政および地域の医療関係者相互の連携、広域的な連携を強化して、町民に迅速で適切な医療サービスを提供できる体制を確立します。	【取組内容】 ・可茂地域病院群輪番制病院設備整備事業負担金、救命救急センター運営費負担金などを支出し、地域医療・救急医療をの推進を図った。 ・各種健診や予防接種事業等を進めるにあたり、可児医師会・可児市と連携を図りながら事業展開を行い、口腔保健事業についても可児歯科医師会・可児市と連携を図りながら事業展開を行った。 【成果】 ・町民に対し適切な医療サービスを広域的に提供できる体制を整えている。また、新型コロナウイルスワクチン接種の定期接種化に関して、可児医師会・可児市と連携し、接種体制を維持することができた。 【課題】 ・町内以外に可児市医師会内の医療機関で予防接種・健診等が実施できないか、引き続き検討する必要がある。	A	福祉子ども課
5-2	感染症に対する危機管理	・感染症に対して全庁的な体制をとることができ、住民に必要な優先的な業務を遂行することができる危機管理体制を構築します。	【取組内容】 ・御嵩町業務継続計画【新型コロナウイルス感染症対応編】に基づき、複数の職員が同時に感染症に罹患した場合でも、行政サービスが停滞することなく行政運営を行った。 【成果】 ・行政サービス低下に伴う苦情などの否定的な意見をほとんど聞かない。 【課題】 ・新型コロナウイルスの5類移行後も一定数の感染者が発生しており、業務をどのように継続していくか検討が必要。	A	総務課
5-2	感染症に対する危機管理	・感染症対策を行いながら生活や産業を維持することができるような、「新しい生活様式」に基づく日常生活の過ごし方や働き方を町内が一体となって確立することを目指します。	【取組内容】 ・在宅勤務やオンライン会議などによる非接触型の日常に移行しつつも、行政サービスを低下させることなく行政運営を行った。 【成果】 ・行政サービス低下に伴う苦情などの否定的な意見をほとんど聞かない。 【課題】 ・新型コロナウイルスの5類移行後も一定数の感染者が発生しており、活動が活発化する中での感染症対策をどのように行うか検討が必要。	A	総務課
5-3	景観の保全	・町の大きな魅力の一つである自然景観や田園景観など“みどりの景観”を、町民の誇れる財産として守り育てるとともに、みどりを守り育てる住民団体の活動を支援します。	【取組内容】 ・森林法による伐採届出の際に御嵩町森林整備計画の適合確認や農地法第5条の転用に係る規制、御嵩町太陽光発電の推進及び適正管理に関する条例に規定する届出義務の付加等、各種法規制により景観保持を行っている。 ・物品の支給等、森林ボランティアの活動支援を行った。 【成果】 ・各種法規制により景観保持がなされている。 ・森林ボランティア団体へ女性2名,男性1名の計3名のの新規入隊者があった。 ・作業に必要な資材等の提供により、ボランティア団体の活動を後押しすることができた。 【課題】 ・一般住民の参画を促す啓発活動を一層推進する必要がある。また、森林ボランティア構成員の高齢化が進んでいるため、新たな人材の確保を検討する必要がある。 ・農地や山林の太陽光発電施設への転用案件が散見され、条例により届出義務の付与、違反行為に対する指導などの対策をとっている。今後さらなる対策として専門家を交えた検討会により、抑制区域等の規制区域の検討などを行っていく必要がある。	B	農林課

○御嵩町第五次総合計画 方針別基本計画実績等一覧(全75施策(所属別評価:79項目))

A：計画通り（達成率75%以上）			49		
B：概ね計画どおり（達成率75%未満～50%以上）			30		
C：あまり進んでいな（達成率50%未満～25%以上）			0		
D：全く進んでいない（達成率25%未満）			0		
0	単位施策	施策の内容	令和6年度実績		
			実施した取組内容と成果及び課題	評価	担当課
5-3	歴史文化の保全と継承	・中山道の宿場町として栄え、以来400年を超える歴史を持つ本町の文化、伝統が次の世代に継承されるよう、関係機関と連携しながら文化遺産の保存、伝統行事の継承を進めるほか、町民が歴史を学ぶことのできる機会を提供します。	【取組内容】 ・平成9年度から実施してきた「中山道」整備事業「歴史の道整備活用推進事業」を経て、平成28年10月は町内を通る「中山道」14.5kmのうち、3.6kmが国史跡として指定され、その後平成31年3月に「中山道」の保存と活用を記載した「御嵩町国史跡中山道保存活用計画」を策定し、整備をしてきた。令和7年度以降に国史跡の範囲で排水対策事業を進めるため、令和6年度に文化庁調査官による現地指導を受けた。 また、国の重要文化財「願興寺本堂修理」についても平成29年度から10年間にわたる事業として継続して事務支援をし11月17日には現場見学会（参加者数108名）を開催した。 【成果】 ・「御嵩町国史跡中山道保存活用計画」の策定により、長年の課題であった中山道及び周辺環境の整備が景観整備事業により進んだことから、定期的な巡回及び史跡区間の修繕等による景観維持に力点を置くことができた。また、排水対策の事業化に向けて協議ができた。 また、国の重要文化財「願興寺本堂修理」に関しては、現場見学会を行うことにより、関心を高めることができた。 【課題】 ・これまでも、中山道みたけ館を拠点とした展示や講座等を通して町内の貴重な文化財について周知を図ってきたが、歴史的な文化財である「中山道」や「願興寺」以外の文化遺産の保存、継承、活用、周知に努めていく必要がある。	A	生涯学習課
5-3	地域文化の創造	・地域の伝統や個性に根ざした町民の自主的な活動を通じ、住民団体による新しい文化活動を推進し、「みたけらしさ」を感じられる地域文化を創造します。	【取組内容】 （図書館） ・「ミニ展示」（5回/年）、親子・子ども向けの読み聞かせ（毎月）、イベント、映画鑑賞会（毎月）、講座等を開催することができた。年間を通じて定期的な新刊の購入、県内外の図書館との相互貸借を行った。 （郷土館） ・令和5年度から引き続き特別展「鉄道の思ひ出展」を開催した。10月から国民文化祭の地域文化発信事業として「広重・英泉の木曾海道六拾九次を辿って中山道を旅してみた（熊谷宿～江戸日本橋＋総集編）」及び11/24に講演会を開催した。写真展「街道と宿場」～伝統と歴史を今に伝える～、「御嵩町美術展」、「御嵩町内学校美部作品展」、「御嵩町文化協会作品展」など町民や学校等の文化活動の発表の場として開催した。 そのほか「講座（中山道散策）」、「陶芸教室」を開催した。 （竹屋資料館） ・茶会、花展、写真撮影会、はた織り体験（毎月）を開催した。また町民等による地域文化や伝統文化などの発表の場として「ミニ展示」（15回/年）を開催した。 【成果】 ・令和6年度は国民文化祭の地域文化発信事業として御嵩町の文化を町内外に発信することができた。 【課題】 ・利用者の固定化が懸念されるため、3館の周知方法などを検討していくことが課題としてあげられる。 ・引き続き利用者の目線に立った施設の魅力アップに努めていく必要がある。	A	生涯学習課

○御嵩町第五次総合計画 方針別基本計画実績等一覧(全75施策(所属別評価:79項目))

A：計画通り（達成率75%以上）		49	
B：概ね計画どおり（達成率75%未満～50%以上）		30	
C：あまり進んでいな（達成率50%未満～25%以上）		0	
D：全く進んでいない（達成率25%未満）		0	

0	単位施策	施策の内容	令和6年度実績		
			実施した取組内容と成果及び課題	評価	担当課
5-4	公共交通の利用促進と体系の見直し	・鉄道事業者と協力して名鉄広見線の利用促進を図るとともに、バスや自転車、駐車場とのネットワークを強化し、町民のニーズにあわせた交通網の形成を進めます。	【取組内容】 ・名鉄広見線の今後に関する勉強会(国、県、名鉄、沿線3市町)にて、令和8年度以降の当該線区の結論発出に向けた調査・協議等を行った。 ・名鉄広見線の定期外及び通勤・通学定期利用促進を図った。 ・町民ニーズに沿ったふれあいバス及びふれあい予約バスの運用を行った。 【成果】 ・勉強会の調査・協議等を踏まえ、町民・利用者向けに広見線に関する説明会を行った。 ・定期券通勤通学者応援制度申請者:816人(うち通学595人、通勤221人)(前年度比+25人) ・企画さっふ販売実績:917枚(4/1～3/31)(前年度比▲297枚) ・「鉄道の思ひ出展」来場者10,000名超(開催期間内計) ・ふれあいバス利用者16,154名(昨年度比+2,533名)、ふれあい予約バス利用者8,426名(昨年度比▲1,142名) ・岐阜県知事選挙の期日前投票期間中の投票所への移動支援としてコミュニティバス無料乗車を実施した。(利用者数過年度同月比:ふれあいバス137%、予約バス107%) 【課題】 ・利用者への影響を勘案し、令和7年6月中までに当該線区に関する合意形成を進め、結論を公表しなければならない。 ・結論に応じて、各種手続きを進めていく。 ・鉄道が運行している限りは、鉄道の広域ネットワークを生かした誘客と、地域内の利用促進を進めていく。 ・ふれあいバス・ふれあい予約バスについては、費用対効果に見合うデジタル技術活用や福祉部門との連携など、多角的な利便性の向上を志向する必要がある。	A	企画課
5-4	道路の整備と維持管理	・道路や橋、トンネルなどの構造物の適正な管理と長寿命化の推進により、安全・安心な道路環境づくりを推進するとともに、国道、県道を含めた幹線道路の改良・整備を促進します。	【取組内容】 ・自治会要望等の道路維持工事(側溝改良工事、舗装補修工事等)を施工した。 ・町道の主要道路(上之郷142号線ほか)の舗装補修を施工した。 ・橋梁長寿命化修繕計画により30橋の橋梁点検を実施した。 ・国・県施設整備のため、行政懇談会等を行い、要望書を提出した。 【成果】 ・補助事業を活用した道路施設補修や橋梁補修を実施できた。 ・道路・橋梁等の補修を進めることで通行の安全性が向上した。 【課題】 ・国・県施設整備のため、引き続き、国・県との会議を開催し、主要道路の改良整備を進めるよう要望を継続する必要がある。 ・町が管理する道路は延長が長く、橋、トンネル等の構造物も補修(更新)が必要であることから、予算の確保が課題。	A	建設課
5-4	上下水道の整備と維持管理	・配水管の耐震化などを進め、安全で安心な水を安定的に供給するとともに、環境保全に努めることで、衛生的で快適な生活環境づくりを推進します。	【取組内容】 ・R5に引き続き上之郷中学校から上之郷小学校までの耐震化工事を施工した。(上水道) ・主要な管路等について3年に1度程度の頻度で点検調査を実施し、点検結果により必要となった老朽管改築を実施した。(下水道)。 【成果】 ・水道管の耐震化率向上により、地震に強い水道の構築を推進できている。(上水道)。 ・下水道の維持管理に努め、不明水を減少させることができた。(下水道)。 【課題】 ・限られた財源の中で経費の削減に努めながら継続的に、耐震化を進める必要がある(上水道)。 ・限られた財源の中で継続的に、下水道整備かつ効率的な維持管理を行う必要がある(下水道)。	A	上下水道課

○御嵩町第五次総合計画 方針別基本計画実績等一覧(全75施策(所属別評価:79項目))

A：計画通り（達成率75%以上）		49			
B：概ね計画どおり（達成率75%未満～50%以上）		30			
C：あまり進んでいな（達成率50%未満～25%以上）		0			
D：全く進んでいない（達成率25%未満）		0			
0	単位施策	施策の内容	令和6年度実績		
			実施した取組内容と成果及び課題		評価
5-4	地域環境の美化促進	・環境汚染防止のための監視体制を強化するほか、環境美化活動を推進します。	【取組内容】 ・不法投棄の抑止力として、毎週日曜日に不法投棄監視パトロールを実施し不法投棄の防止に務めるとともに、不法投棄物の迅速な発見及び回収、不法野焼きに対する指導に努めた。 ・適正な管理がされていない空き地の雑草については、所有者へ草刈りをするよう通知をした。（通知件数 74件） 【成果】 ・5月に町内一斉清掃、11月に松野湖クリーン作戦を実施した。（例年2月に可児川クリーンキャンペーンを実施するが、令和6年度は降雪のため中止とした。）（参加人数等：一斉清掃 52自治会、松野湖クリーン作戦 100人） ・空き地の雑草について通知をすることにより草刈りが実施された。 【課題】 ・令和6年度は税務課へ課税情報の照会を行うことにより、登記されていない土地の相続人等へ通知を行うことができるようになったが、所有者不明土地の場合は前年度と同様に通知が届かないことがある。	B	住民環境課
5-4	地域環境の美化促進	・空き家・空き地の適正管理を促すことで危険な空き家の発生を抑制するとともに、これらを活用して移住者の受け入れなど地域振興に生かします。	【取組内容】 ・継続的な適正管理に係る啓発を行うとともに、御嵩町空家等対策計画と所有者不明土地対策計画に基づく総合的な管理を行っている。 【成果】 ・特定空家に認定されている3つの物件のうち、1件の特定空家については行政代執行を実施し除却することができた。また、もう1件についても、所有者親族との調整の結果、親族による除却が実現した。残りの特定空家は1件となった。 【課題】 ・行政代執行後の費用徴収について町としての実施実績がないため、他自治体の例を参考に慎重に進める必要がある。 ・交渉の余地がない案件に係る強制執行などの対応方針の検討や、財産管理人をたてるなどその手法について検討する必要がある。	A	総務課
5-4	地域環境の美化促進	・空き家・空き地の適正管理を促すことで危険な空き家の発生を抑制するとともに、これらを活用して移住者の受け入れなど地域振興に生かします。	【取組内容】 ・空き家バンク制度の周知のために、固定資産税の納税通知書を送付する際の封筒に空き家バンク制度についての広告を掲載した。 ・空き家バンク登録申請の際に、御嵩町空き家家財道具処分等補助金交付制度の紹介を行った。 ・空き家バンク登録物件の改修費補助制度の制度化と運用を開始した。 【成果】 ・移住者受け入れを目的としている空き家バンクを運用した。（令和6年度新規物件登録件数10件、内成約済5件） ・御嵩町空き家家財道具処分等補助金交付制度の活用が1件あった。 ・空き家バンク登録物件の改修費補助制度の活用が1件あった。 【課題】 ・空き家バンク制度による登録物件の売買契約の成立や家財道具処分費補助金を運用していくことは、物件の適正管理にもつながるため、当該制度の拡充と周知を徹底していく必要がある。 ・民間事業者との連携を進め、効率化とマッチングを進める。	A	企画課
5-4	都市公園等の維持管理	・都市公園である南山公園をはじめ、身近な公園や緑地の整備や適正な維持管理を推進し、緑豊かな憩いの場づくりに努めます。	【取組内容】 ・都市公園である南山公園は管理委託業務にて定期的な維持管理を実施するとともに、遊具は専門業者による年2回の点検及び職員による毎月点検を実施した。 ・南山公園野球場駐車場の区画線工事を実施した。 ・遊具、南山公園野球場駐車場電灯、芝生等の修繕を実施した。 【成果】 ・公園や緑地が適正に維持管理されている。 【課題】 ・ローラー滑り台について部分的な補修（安全対策）が必要なため予算の確保が課題。また、木製遊具等も引き続き長寿命化に向けた適切な補修や将来的な更新が必要である。 ・獣害（イノシシ）が芝生等を荒らしており、修繕や対策が必要。	A	建設課